

学校給食に関するアンケート 調査報告書

令和6年7月

市川市教育委員会 保健体育課

1. 調査の概要

本市では、市立学校の学校給食費無償化を実施してから約1年が経過し、今後よりよい運用を目指していくことを目的に、学校給食に関するアンケートを実施した。

2. 調査の設計

対象者	項目	内容
①保護者	抽出方法	市立学校に通う在校生の保護者
	調査方法	WEB 回答 (学校経由でメール配信)
	対象者数	31,331 名
②児童生徒	抽出方法	市立学校に通う小学校4年生から 中学校3年生までの児童生徒
	調査方法	WEB 回答 (学習用タブレットを活用)
	対象者数	20,282 名
③教職員	抽出方法	市立学校の教職員
	調査方法	WEB 回答
	対象者数	2,636 名

※紙での回答を希望する方には、回答用紙（紙）を配付

※児童生徒数は令和6年5月1日時点

3. 調査期間

令和6年5月10日（金）から令和6年5月26日（日）まで

4. 回答数

対象者	対象者数（人）	回答数（人）	回答率
①保護者	31,331	13,228	42.2%
②児童生徒	20,282	11,564	57.0%
③教職員	2,636	1,329	50.4%

《保護者向け》学校給食に関するアンケート 調査結果

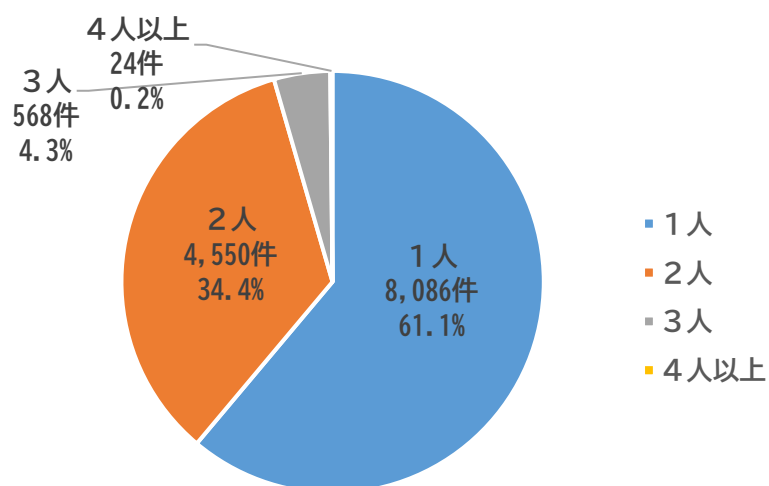
対象者

市立学校在校生保護者 31,331名

回答数

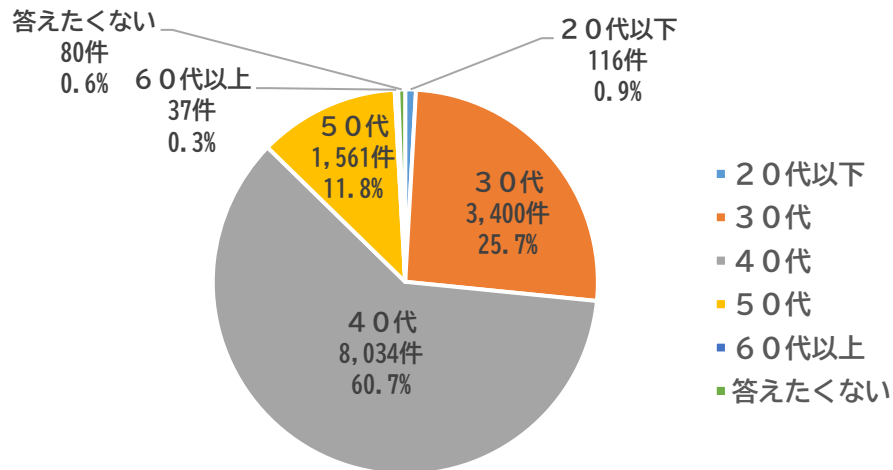
対象者数	回答数	回答率
31,331名	13,228名	42.2%

Q1. 市立学校に通っているお子さんは何人いらっしゃいますか？



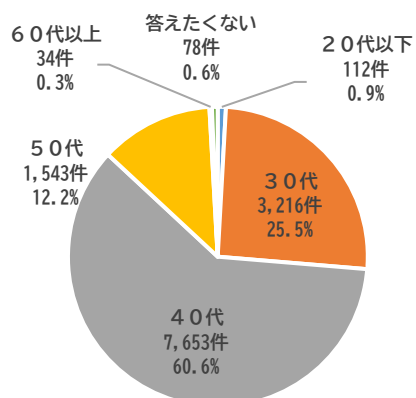
各家庭の中で市立学校に通っている在校生の数を見ると、「1人」が61.1%（8,086件）、「2人」が34.4%（4,550件）、「3人」が4.3%（568件）、「4人」が0.2%（24件）というような結果となった。

Q2. 保護者様の年代を教えてください

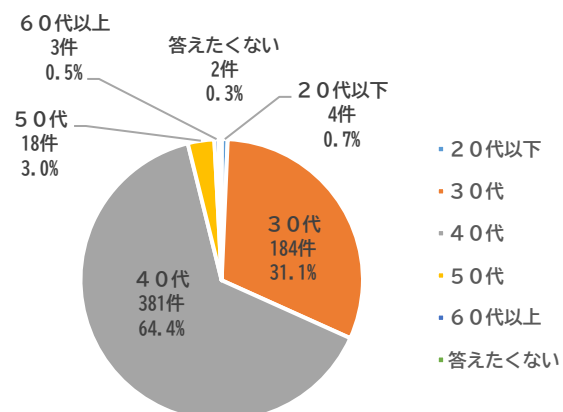


【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

市立学校に通うお子さんが
1人または2人の場合

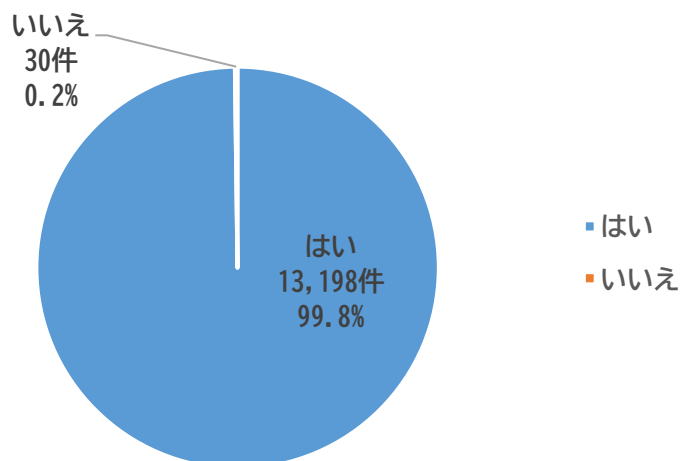


市立学校に通うお子さんが
3人以上の場合



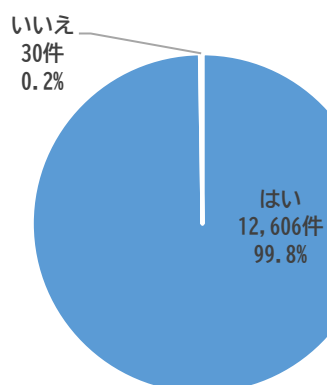
保護者の方の年齢を見ると、「40代」が最も多く60.7%（8,034件）、次いで「30代」が25.7%（3,400件）、「50代」が11.8%（1,561件）となった。

Q3. お子さんは、学校給食の申し込みをしていますか？

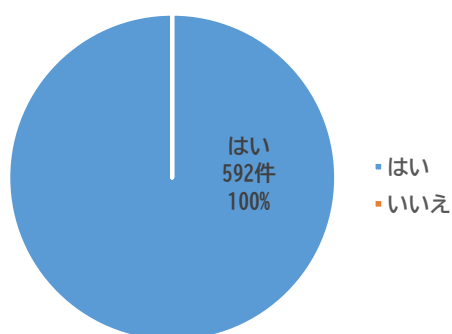


【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

市立学校に通うお子さんが
1人または2人の場合

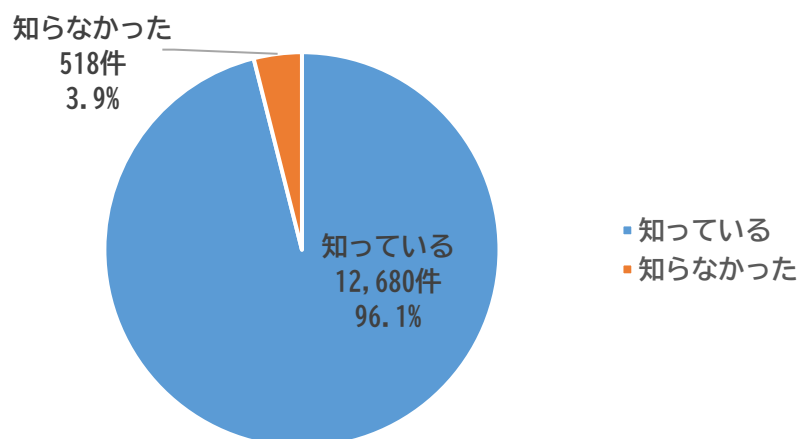


市立学校に通うお子さんが
3人以上の場合



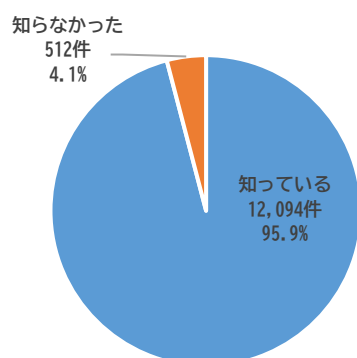
学校給食の申し込み状況を見ると、99.8%（13,198件）が申し込んでいると回答。こどもが3人以上いる世帯では申し込んでいる方が100%の状況であった。

Q4. 学校給食費が無償になっていることを知っていましたか？

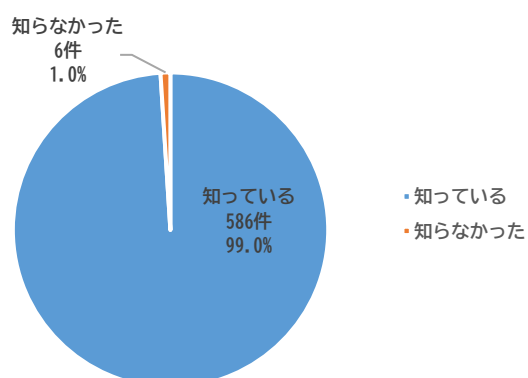


【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

市立学校に通うお子さんが
1人または2人の場合

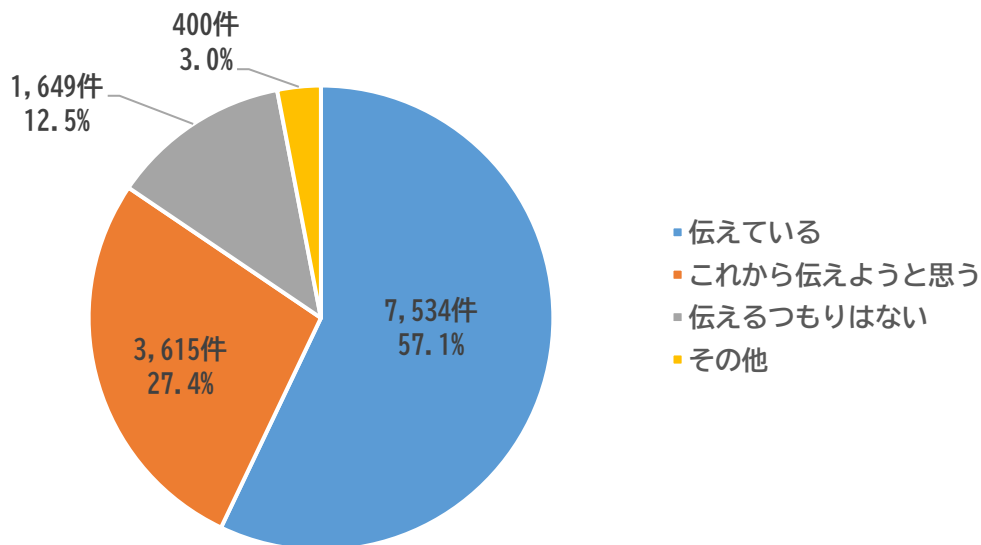


市立学校に通うお子さんが
3人以上の場合



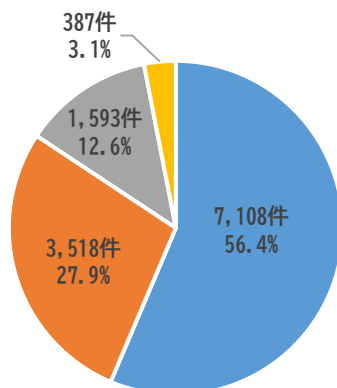
学校給食費が無償になっていることを知っていると答えた方は96.1%（12,680件）となった。
こどもの人数別でみると、3人以上いる世帯では99.0%（586件）と、こどもが1・2人の世帯よりも無償化の認知度が高い結果となった。

Q5. 学校給食費が無償化されていることをお子さんに伝えていますか？

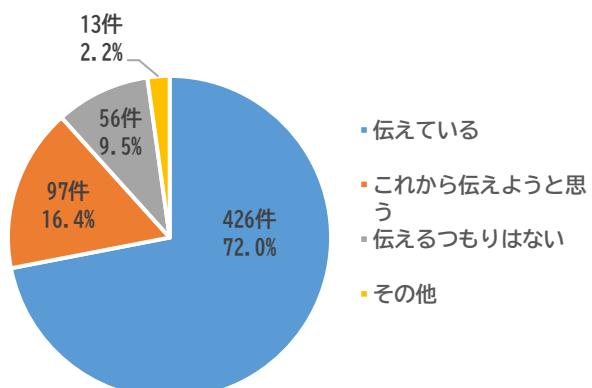


【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

市立学校に通うお子さんが
1人または2人の場合



市立学校に通うお子さんが
3人以上の場合

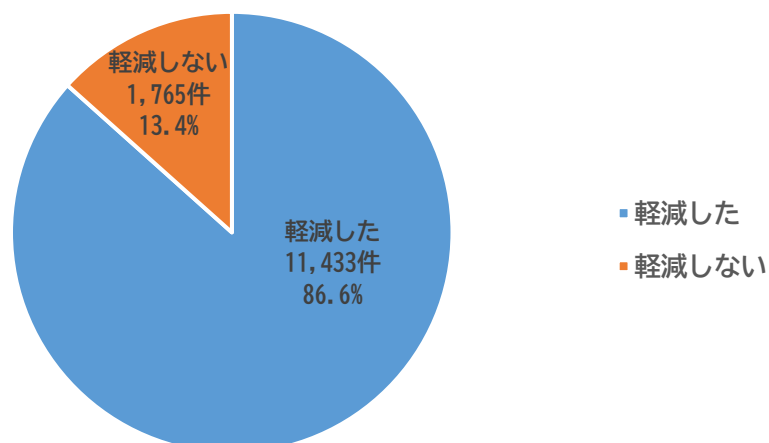


【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・ 伝えていなかったまたは伝える必要はないと判断したため（103件）
- ・ こどもに聞かれる機会があった際には必要に応じて伝えたい（75件）
- ・ 伝えるべきという認識がなかった（96件）

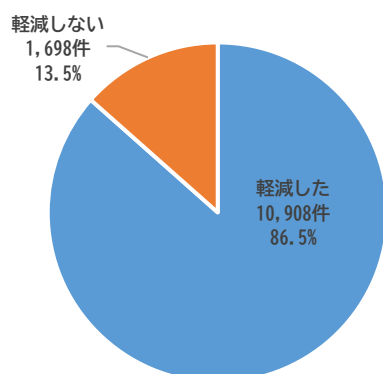
学校給食が無償化されていることをこどもに「伝えている」と答えた方は57.1%（7,534件）、「これから伝えようと思う」と答えた方は27.4%（3,615件）となった。その他の意見には、「伝えていなかった、伝える必要はないと判断したため」、「こどもに聞かれる機会があったら必要に応じて伝えたい」といった意見や「伝えるべきという認識がなかった」といった意見が挙げられた。

Q6. 学校給食費が無償化されたことで、子育てにかかる経済的な負担は軽減しましたか？

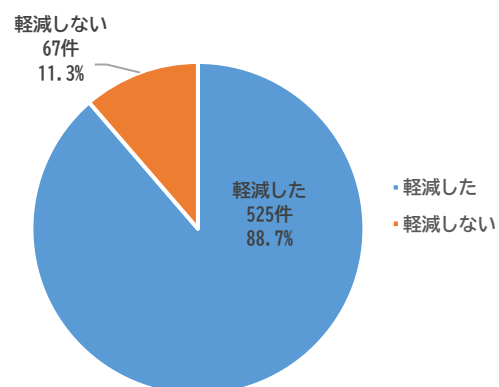


【こどもの人数別比較（１・２人、３人以上）】

市立学校に通うお子さんが
１人または２人の場合



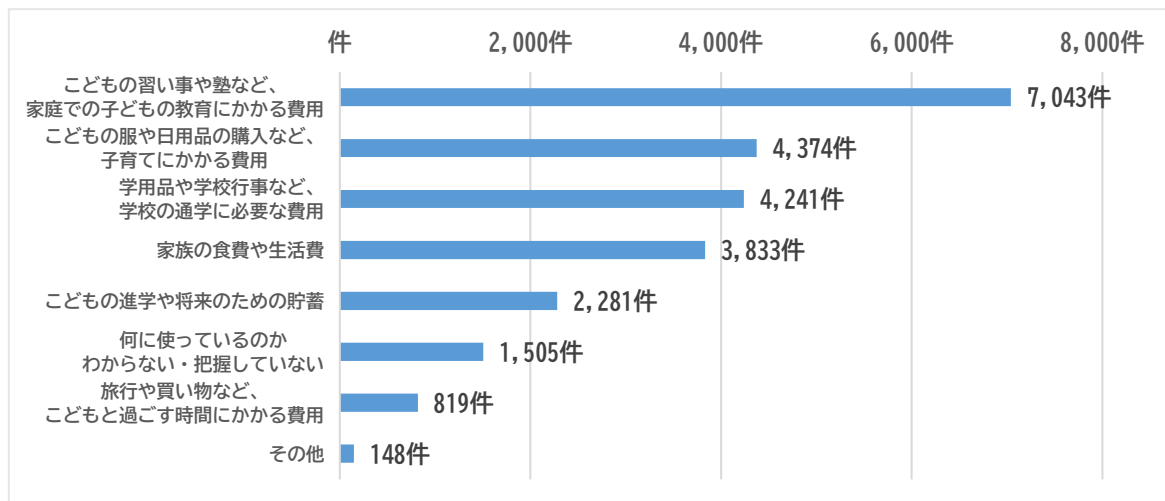
市立学校に通うお子さんが
３人以上の場合



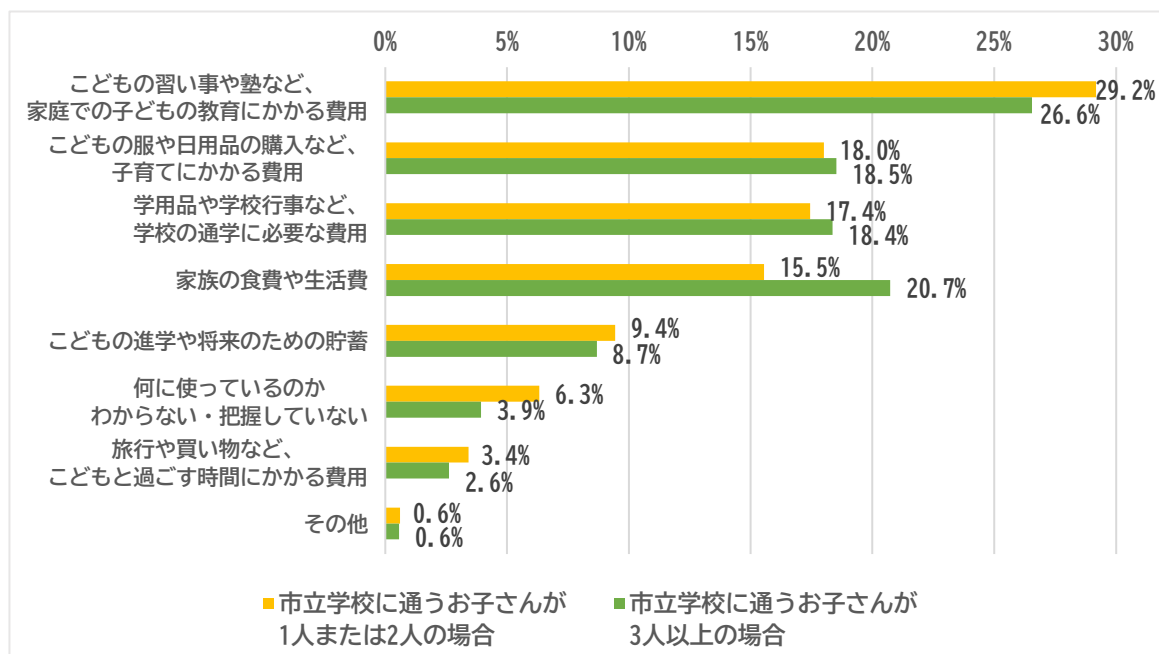
学校給食が無償化されたことで、経済的な負担が「軽減した」と答えた方は86.6%（11,433件）、「軽減しない」と答えた方は13.4%（1,765件）となった。
こどもの人数別に比較しても同様の傾向であることがわかった。

Q7. 学校給食費の負担がなくなった分のお金は何に使っていますか？

または何に使う予定ですか？ ※複数回答可



【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】



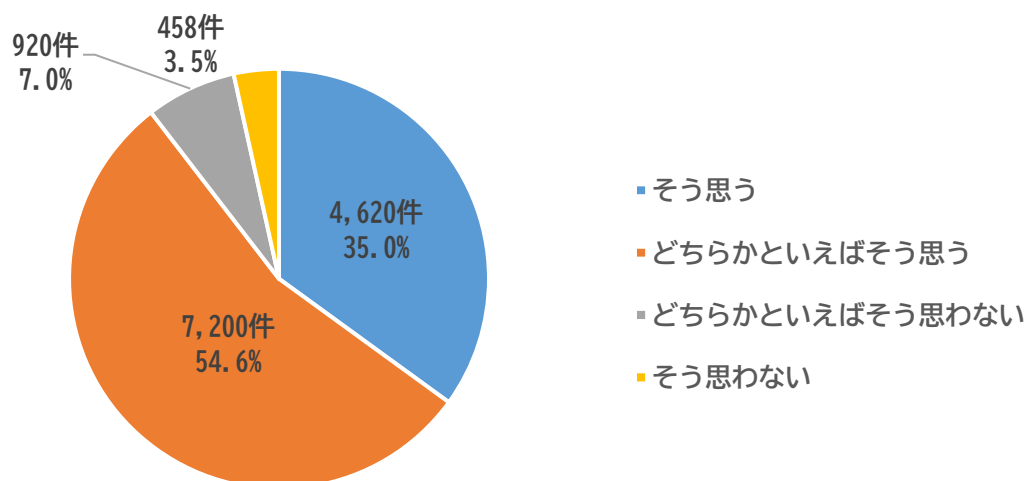
【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・ 代替の費用を意識していない（45件）
- ・ 入学時から無償または以前から支援を受けており負担がなかったためわからない（25件）
- ・ 生活費や食費など様々な物価高騰分に充てている（食費、電気代など）（22件）

学校給食費の負担がなくなった分のお金の用途について、「こどもの習い事や塾など、家庭での子どもの教育にかかる費用」と答えた方は29.1%（7,043件）、「こどもの服や日用品の購入など、子育てにかかる費用」と答えた方は18.0%（4,374件）、「学用品や学校行事など、学校の通学に必要な費用」と答えた方は17.5%（4,241件）となり、高い割合でこどもにかかる費用に充てていることがわかった。

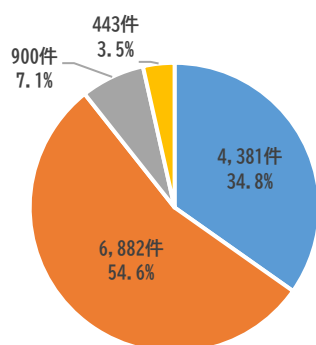
こどもの人数別に比較すると、概ね同じ傾向ではあるが、こどもが3人以上いる世帯については「家族の食費や生活費」にしめる割合が高い結果となった。

Q8-1.給食は残さず食べるべきだと思いますか？

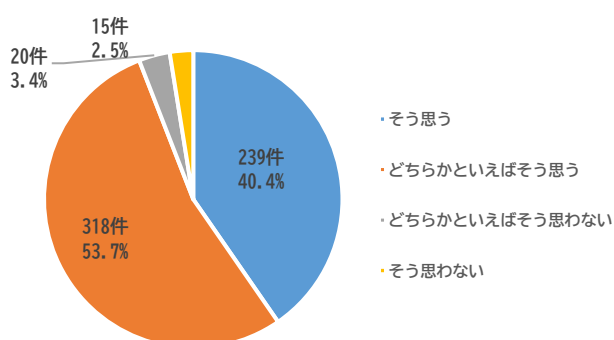


【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

市立学校に通うお子さんが
1人または2人の場合



市立学校に通うお子さんが
3人以上の場合

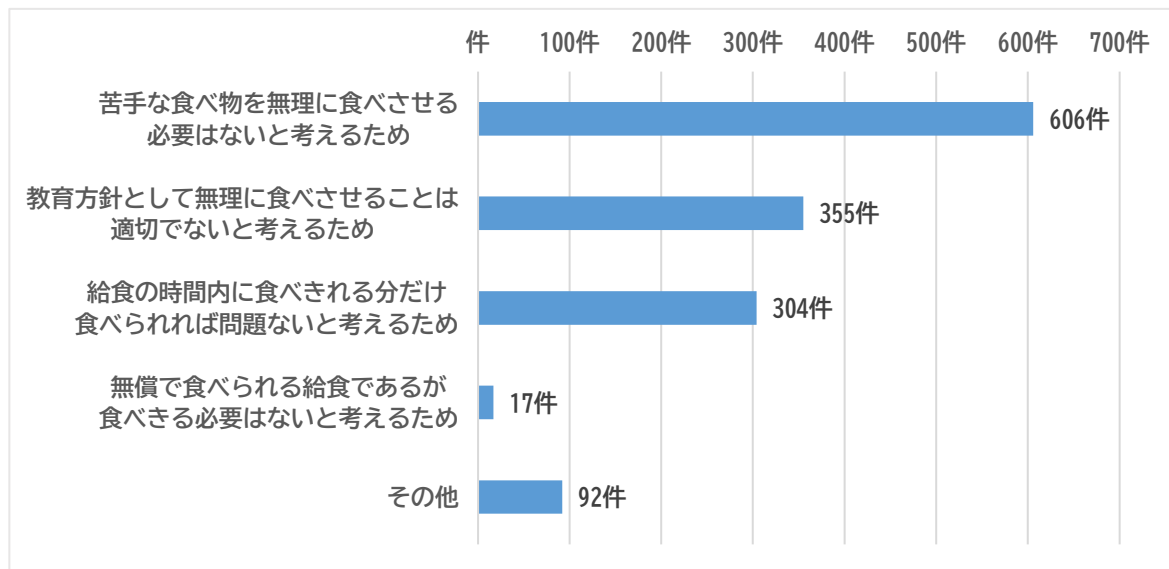


「そう思う」（35.0%、4,620件）、「どちらかといえばそう思う」（54.6%、7,200件）を選んだ方が全体の89.6%を占めており、ほとんどの保護者が給食を残さず食べてほしいと考えていることがわかった。

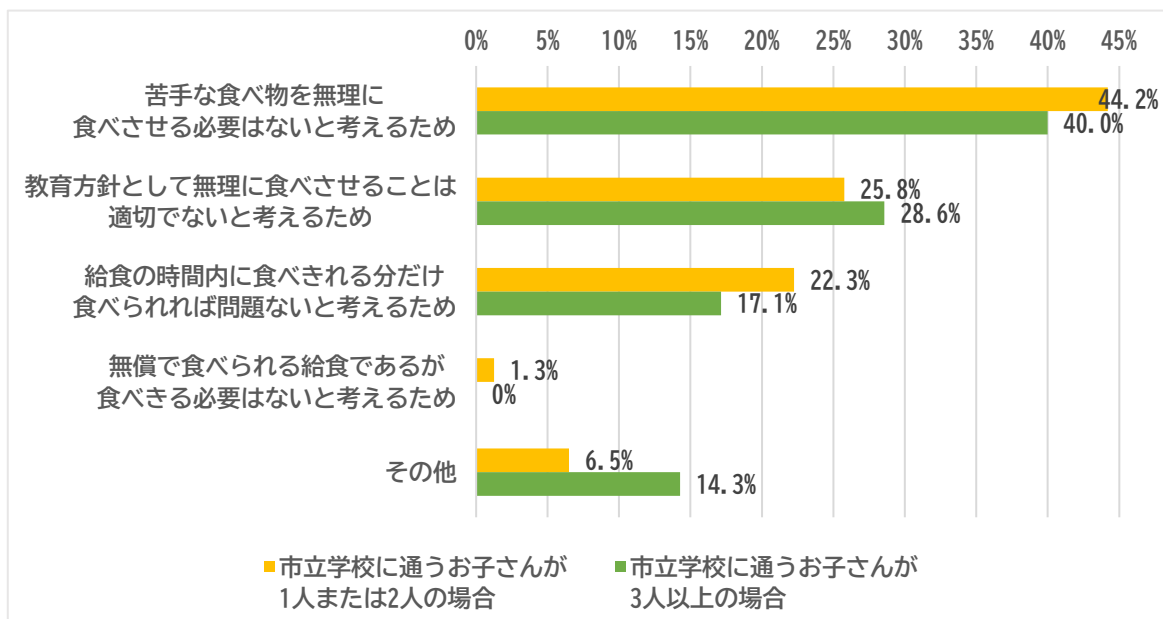
児童生徒と教職員にも同じ質問をしているが、残さず食べてほしいというような同様の傾向となった。

(Q8-1にて「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」を選んだ方のみ)

Q8-2.理由を教えてください



【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】



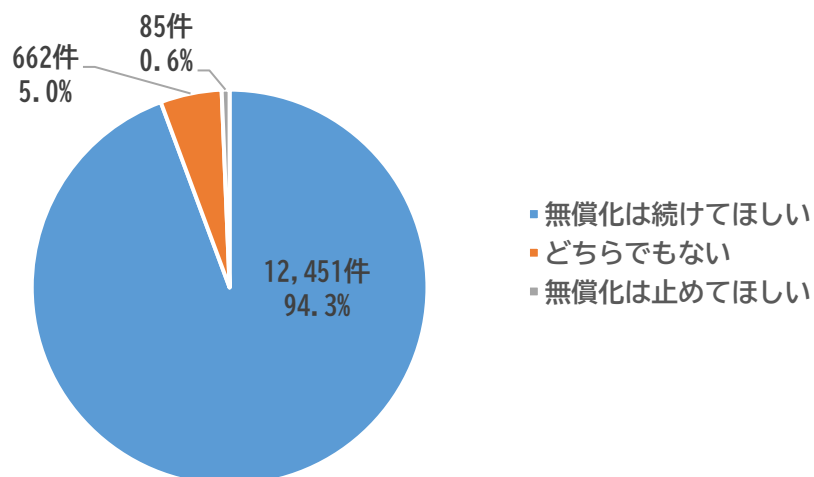
【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・それぞれ食べられる量や食材、事情が異なるため無理して食べるべきではない（36件）
- ・無理して食べることで体調を崩してしまう可能性があるため（12件）
- ・残さず食べてほしいと思う一方で、「食べるべき」という価値観を押し付けて無理をさせるべきでないと考えるため（12件）

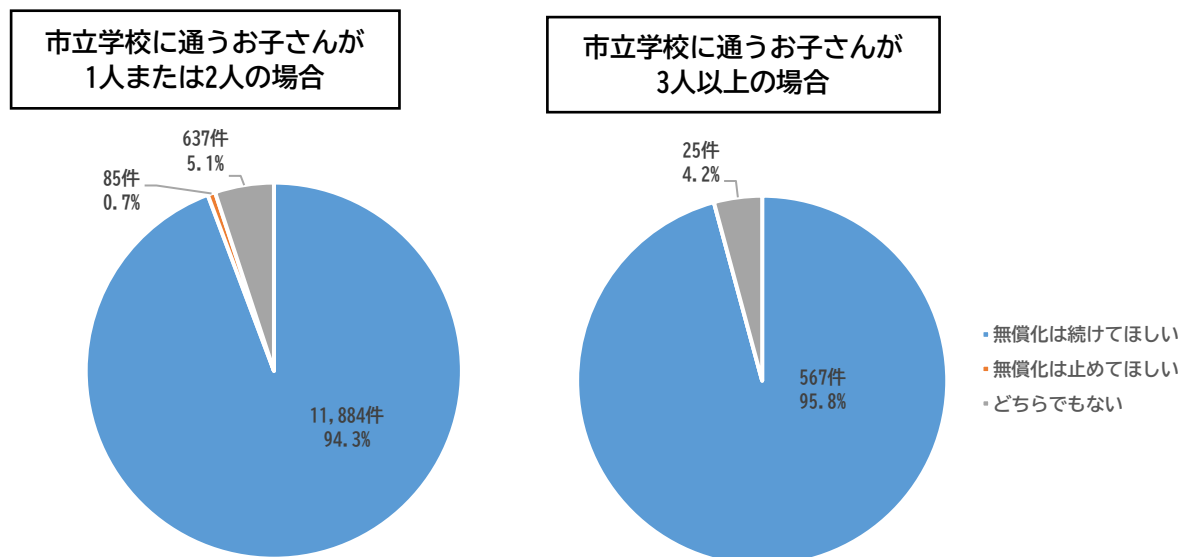
「どちらかといえばそう思わない」（7.0%、920件）、「そう思わない」（3.5%、458件）を選んだ1,378名の方の中で、「苦手な食べ物を無理に食べさせる必要はないと考えるため」（44.1%）という意見が一番多い結果となった。

また、その他の理由の中には「それぞれ食べられる量や食材、事情が異なるため無理して食べるべきではない」、「無理して食べることで体調を崩してしまう可能性があるため」等が挙げられた。

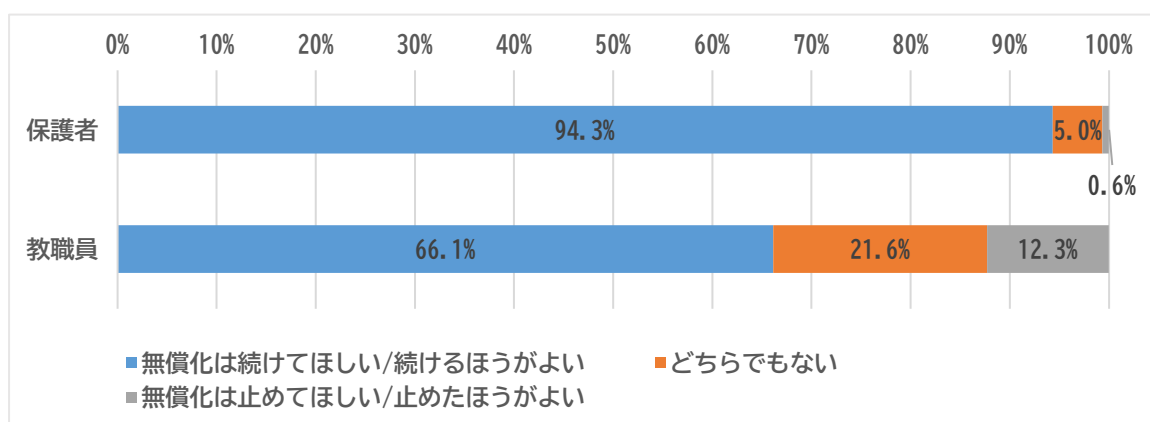
Q9. 給食費の無償化は、これからも続けていくべきだと思いますか？



【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】

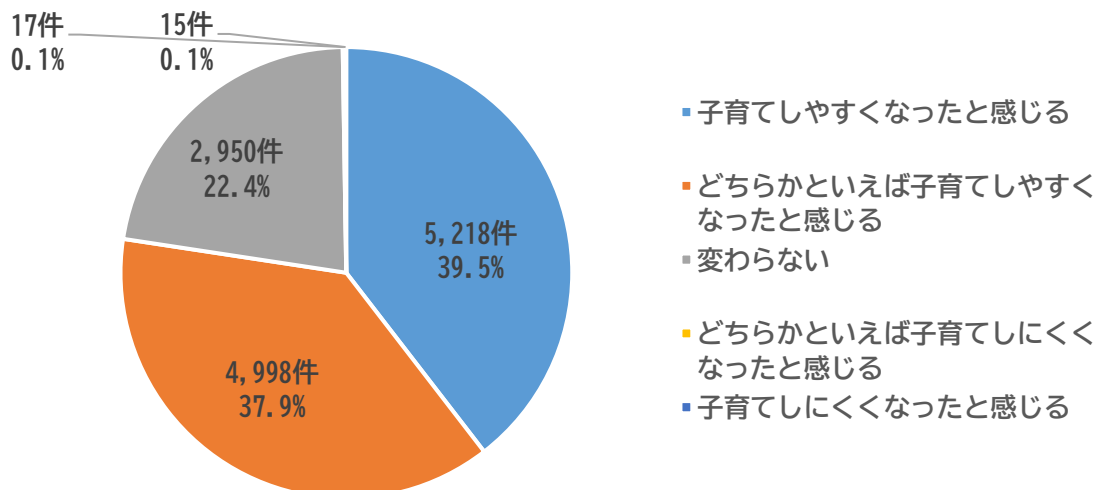


（参考）【教職員比較】

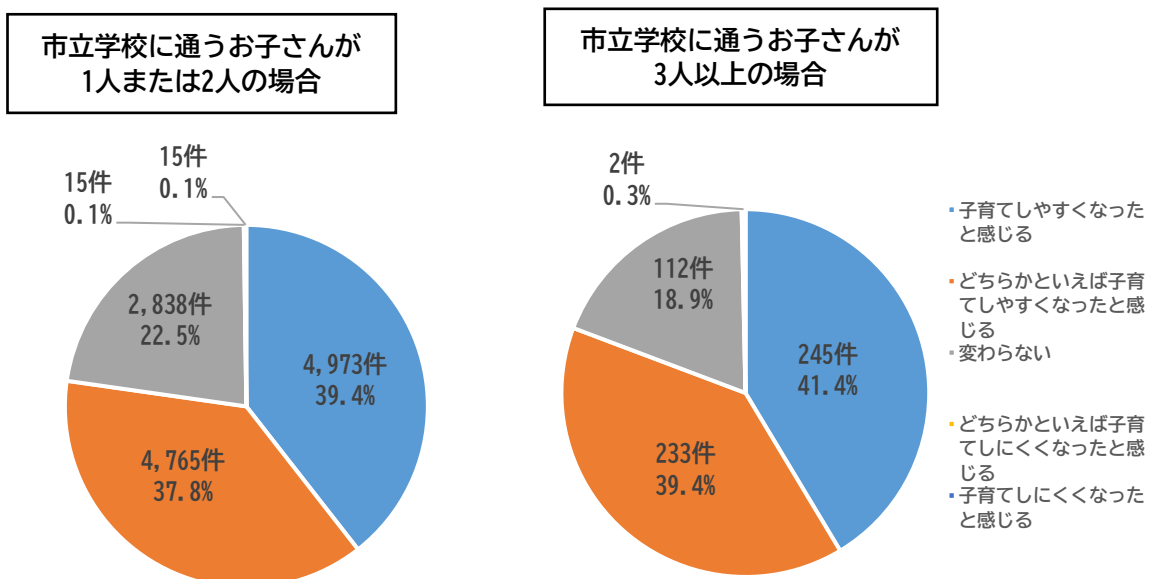


「続けてほしい」（94.3%、12,451件）という意見が大半をしめる結果となった。
こどもの人数別にみても同様の傾向となっている。また、教職員の結果と比較すると、実際に給食費を負担していた保護者の方が、無償化の継続を望んでいることがわかる。

Q10. 給食費の無償化により、市川市で子育てしやすくなったと感じますか



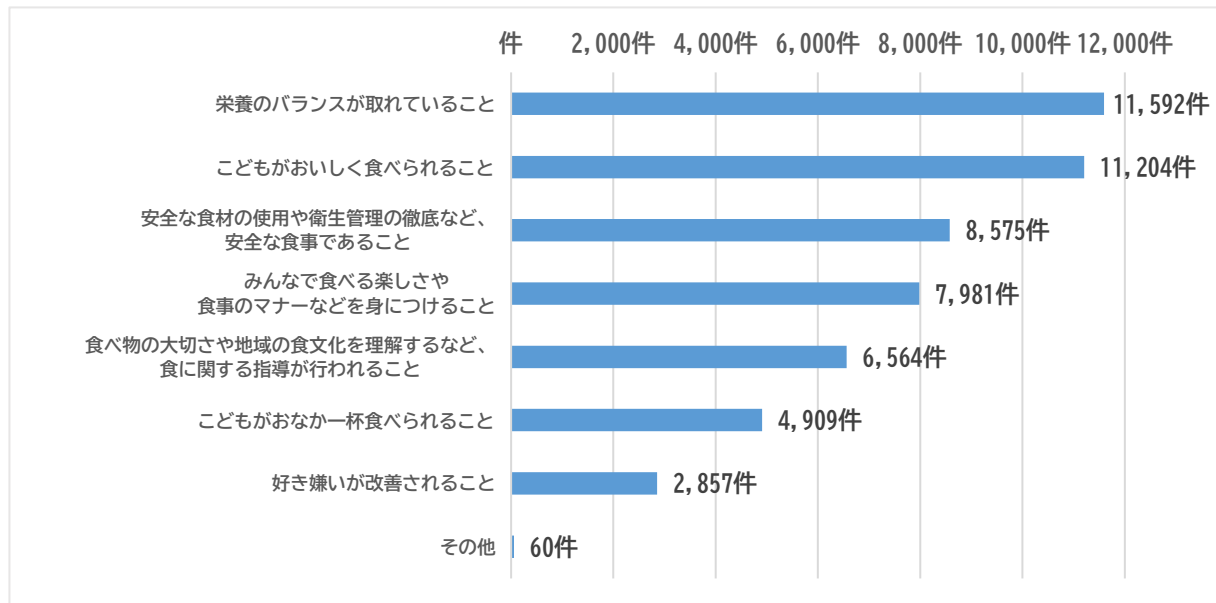
【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】



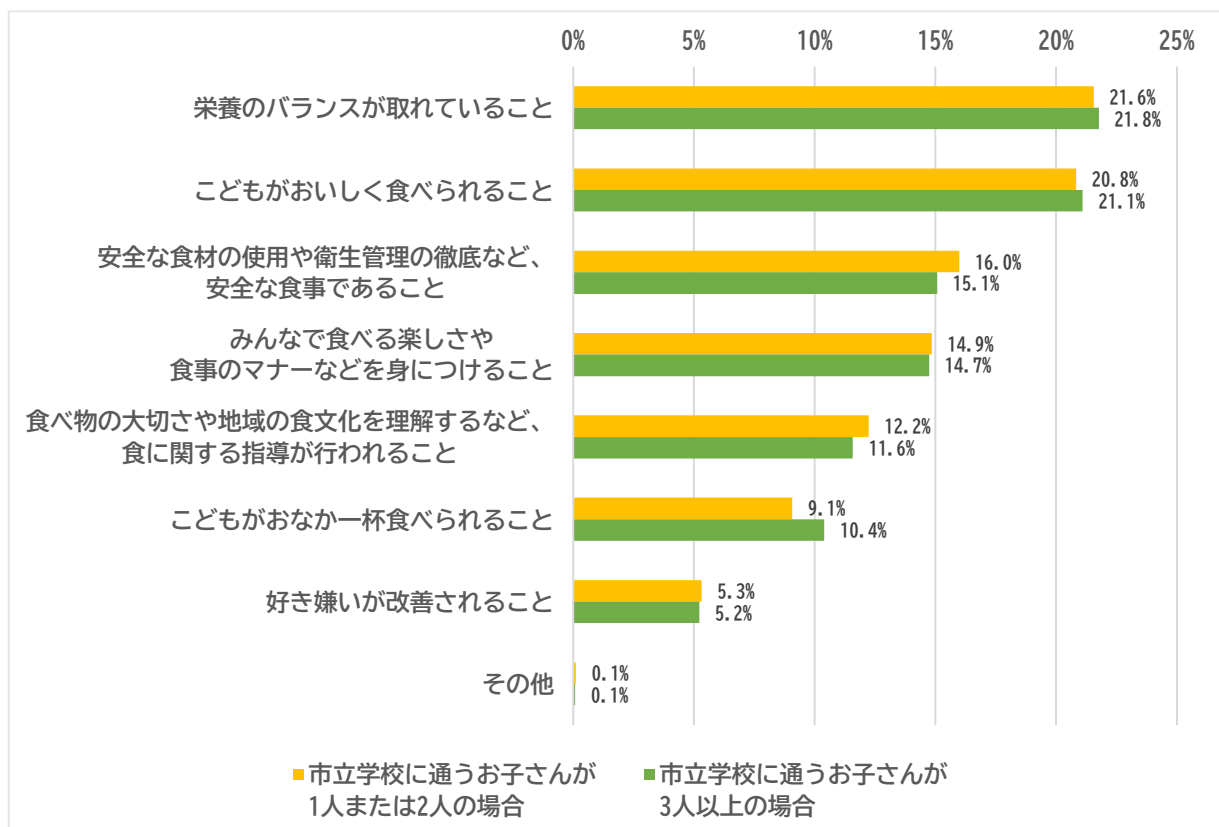
給食費の無償化により、市川市で「子育てをしやすくなったと感じる」と答えた方が39.5%（5,218件）、「どちらかといえば子育てをしやすくなったと感じる」と答えた方が37.9%（4,998件）となっており、無償化が子育て支援の一助となっていることがわかる。

一方で、自由記載欄の意見の中には、給食費の無償化だけでは子育てのしやすさには直結しないといった意見も挙げられていた。

Q11. 学校給食において、重要だと思うことは何ですか？ ※複数回答可



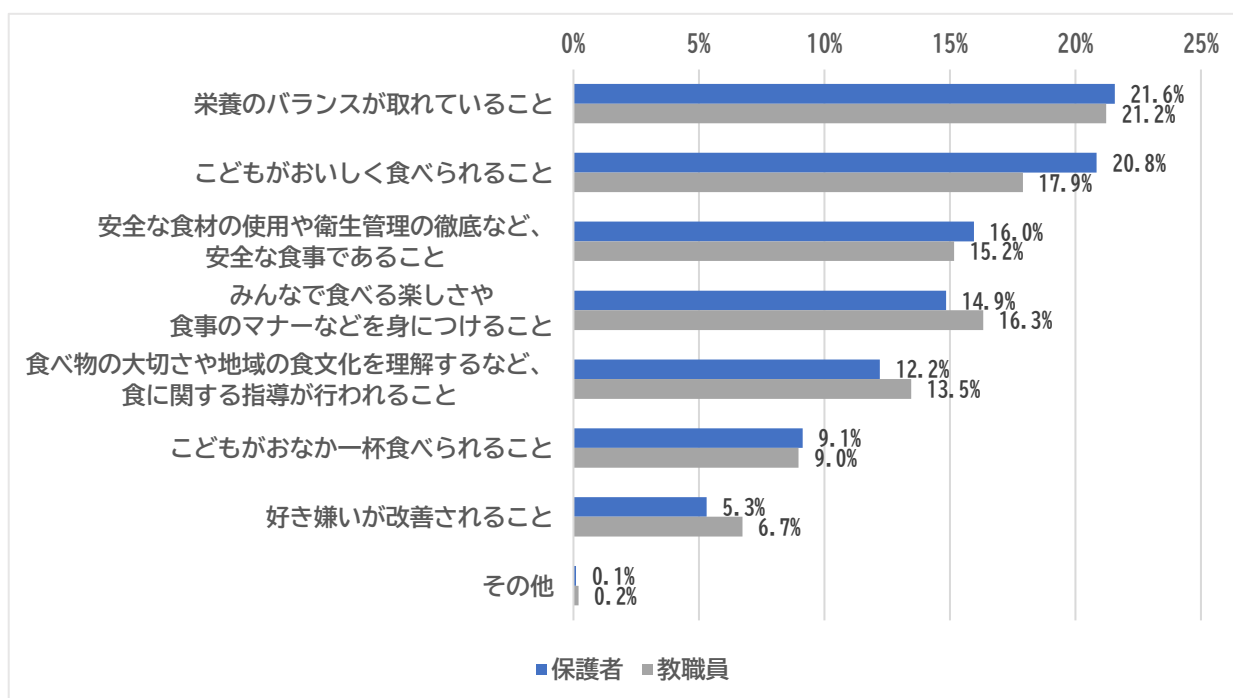
【こどもの人数別比較（1・2人、3人以上）】



【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・調理員や生産者、食材への感謝の気持ちをもつこと（9件）
- ・給食を通じて食の幅が広がること（7件）
- ・できるだけオーガニックの食材を使用し、添加物や福島産のお米は使わず安全な食材で提供すること（6件）

(参考) 【教職員比較】



「栄養バランスが取れていること」(21.6%、11,592件)を給食において重要としているという結果となった。次いで、「こどもがおいしく食べられること」(20.8%、11,204件)、「安全な食材の使用や衛生管理の徹底など、安全な食事であること」(16.0%、8,575件)と続く結果となった。

この結果は、こどもの人数別比較や教職員と比べた際にも、概ね同様の傾向であった。

Q12. その他ご意見がございましたらご記入をお願いいたします

- ・おいしい給食への感謝（879件）
- ・無償化制度への感謝(345件)

○給食提供に関する自由記載

- ・量や品数を増やしてほしい（220件）
- ・質の確保を優先してほしいので、必要に応じて自己負担が生じてもやむを得ない（136件）
- ・独特または苦手と感じる子が多いメニュー（辛い物など）や味つけは減らしていき、親しみやすいメニューにしてほしい（126件）
- ・学校間でおいしさに差が出ないように、改善してほしい（114件）

○給食指導に関連する自由記載

- ・残さず食べることも重要であるが、考慮すべき事情やその日の体調があるので、完食を強要しないでほしい。食べる前に量を減らしてよいとするなど、給食指導を市や学校内で統一してほしい。（71件）
- ・給食の時間が配膳や前後の授業に影響され、短いことがあるので食育の観点からも十分な給食時間を設けてほしい（59件）
- ・コロナ禍前のように、給食を食べる際に机は前向きではなく班にしてコミュニケーションをとりながら楽しく給食を食べてほしい（35件）

○その他の意見

- ・無償化することで他の教育費用等に税金を回せないのであれば制度をやめるべき（146件）
- ・できるだけオーガニックの食材を使用し、添加物や福島産のお米は使わず安全な食材で提供してほしい（60件）
- ・アレルギーや宗教で食事制限のある方や不登校、私立等に通う子への補助を検討してほしい（43件）
- ・給食の提供日数を増やし、行事の日なども提供してほしい（42件）

《児童生徒向け》学校給食に関するアンケート 集計結果

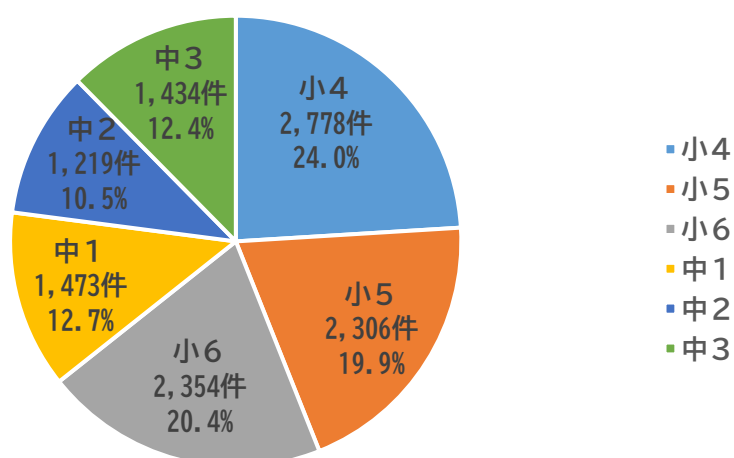
対象者

市立学校に通う小学校4年生から中学校3年生の児童生徒20,282名

回答数

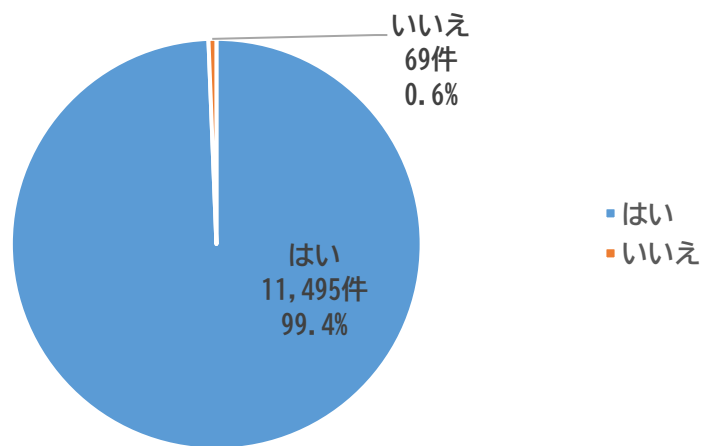
対象者数	回答数	回答率
20,282名	11,564名	57.0%

Q1.現在の学年を選んでください



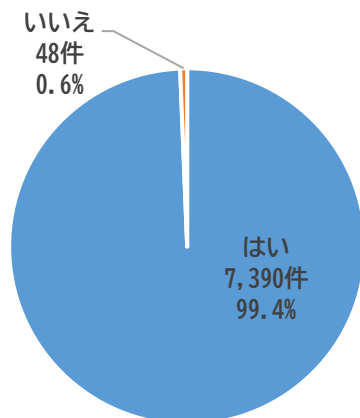
回答者の学年を見ると、「4年生」が24.0%（2,778件）、「5年生」が19.9%（2,306件）、「6年生」が20.4%（2,354件）、「中学1年生」が12.7%（1,473件）、「中学2年生」が10.5%（1,219件）、「中学3年生」が12.4%（1,434件）というような回答率となった。

Q2. あなたは給食を食べていますか？

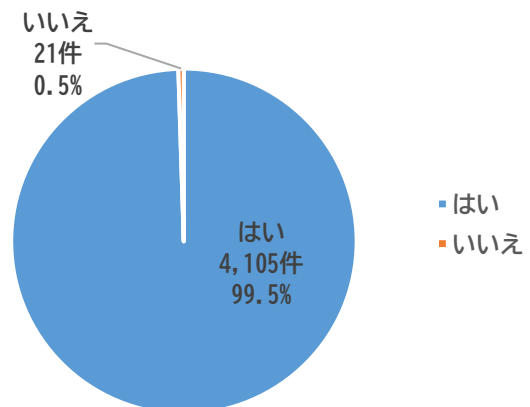


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生

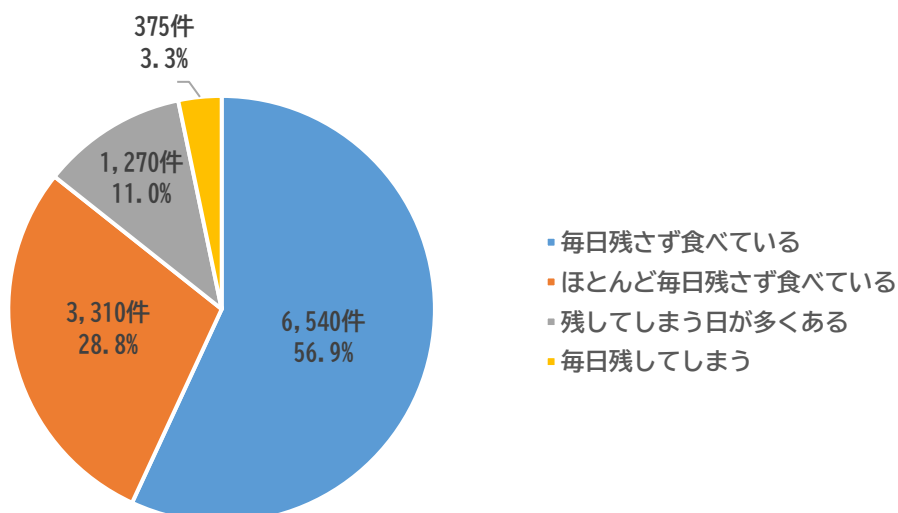


中学生



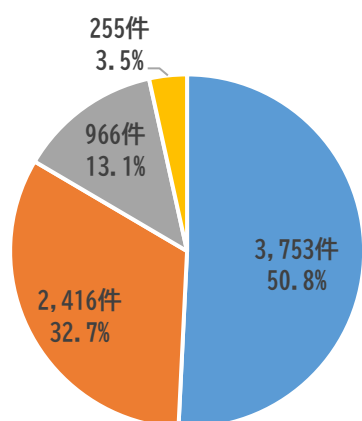
学校給食の申し込み状況を見ると、全体の99.4%（11,495件）が給食を食べているという結果となった。

Q3－１.あなたは給食を残さず食べていますか？

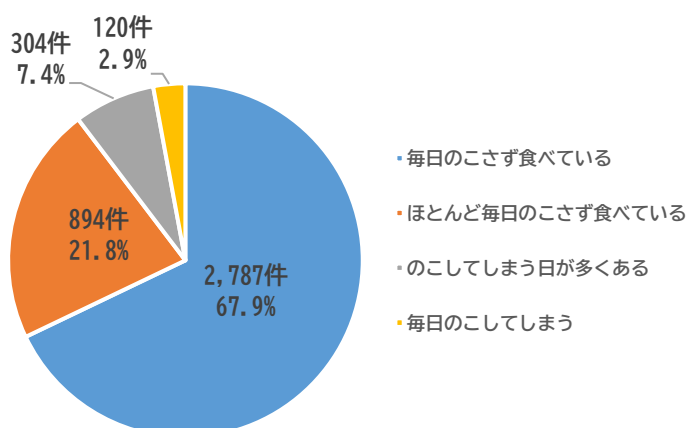


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生



中学生

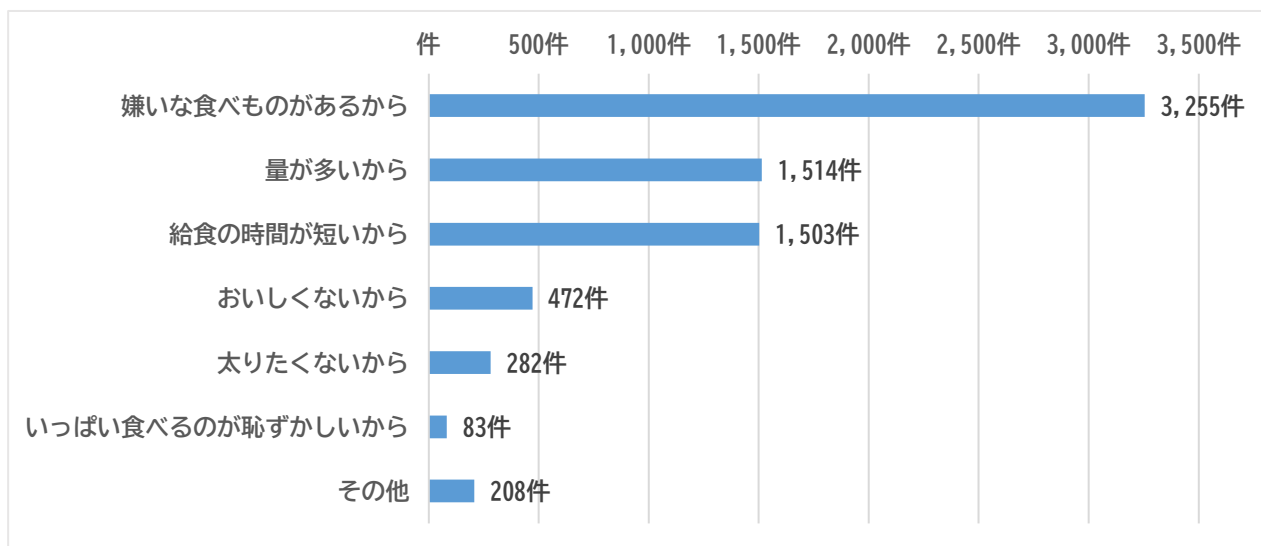


給食を「毎日残さず食べている」と回答した方は56.9%（6,540件）、「ほとんど毎日残さず食べている」と回答した方は28.8%（3,310件）と、8割以上の児童生徒がほとんど残さず給食を食べていることがわかる。

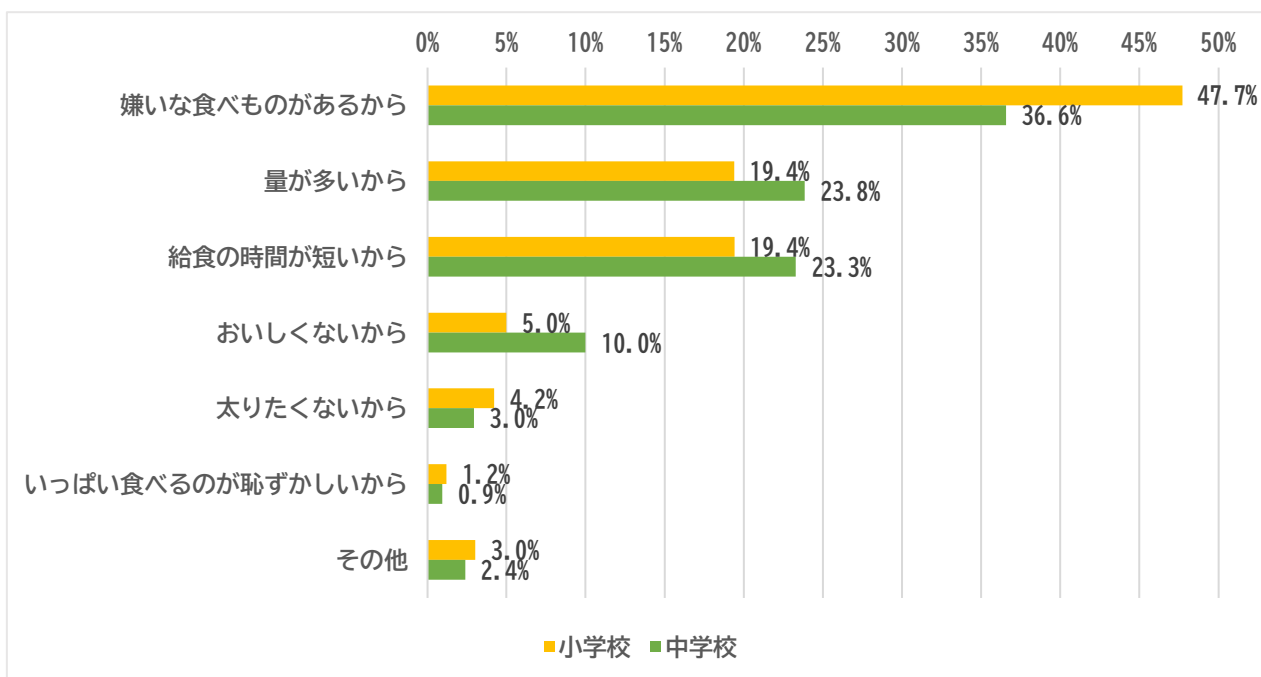
また、学校区分別に見たときに、中学校のほうがかほとんど残さず食べる方の割合が高かった。

(Q3-1にて「ほとんど毎日残さず食べている」、「残してしまう日が多くある」または「毎日残してしまう」を選んだ方のみ)

Q3-2. あなたが給食を残してしまう理由はなんだと思いますか？ ※複数回答可



【学校区分別比較（小学生、中学生）】



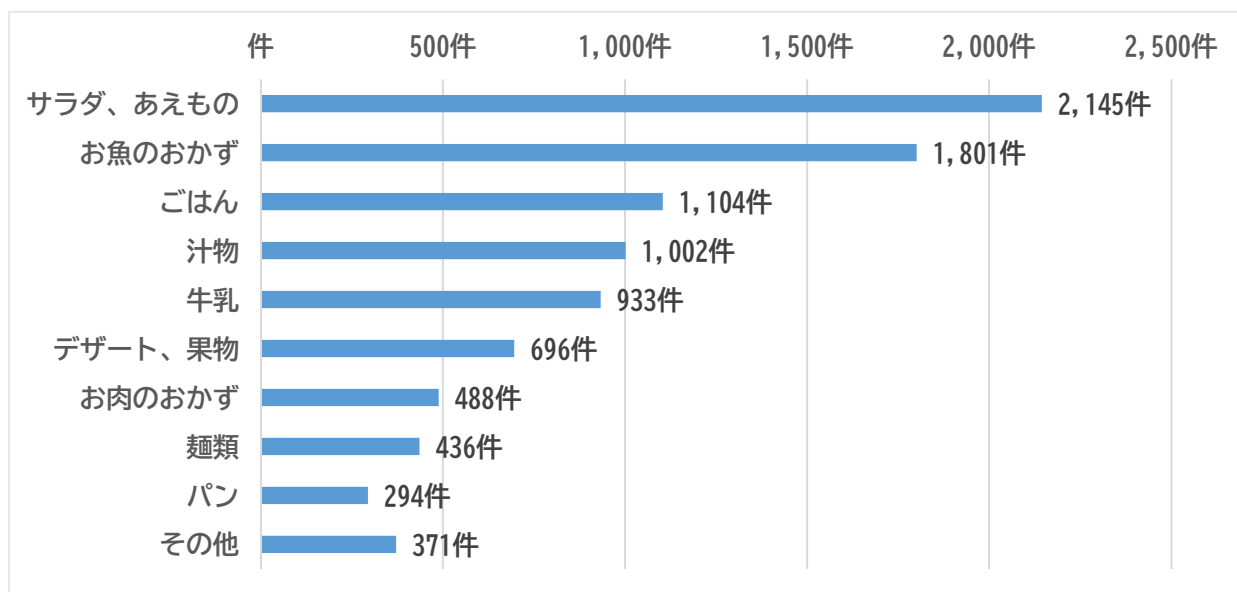
【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・ 嫌いな給食、メニューがでるため（33件）
- ・ 腹痛や体調不良を起こしてしまうことがあるため（27件）
- ・ 給食の時間が楽しく、ついついみんなと話してしまうため（23件）

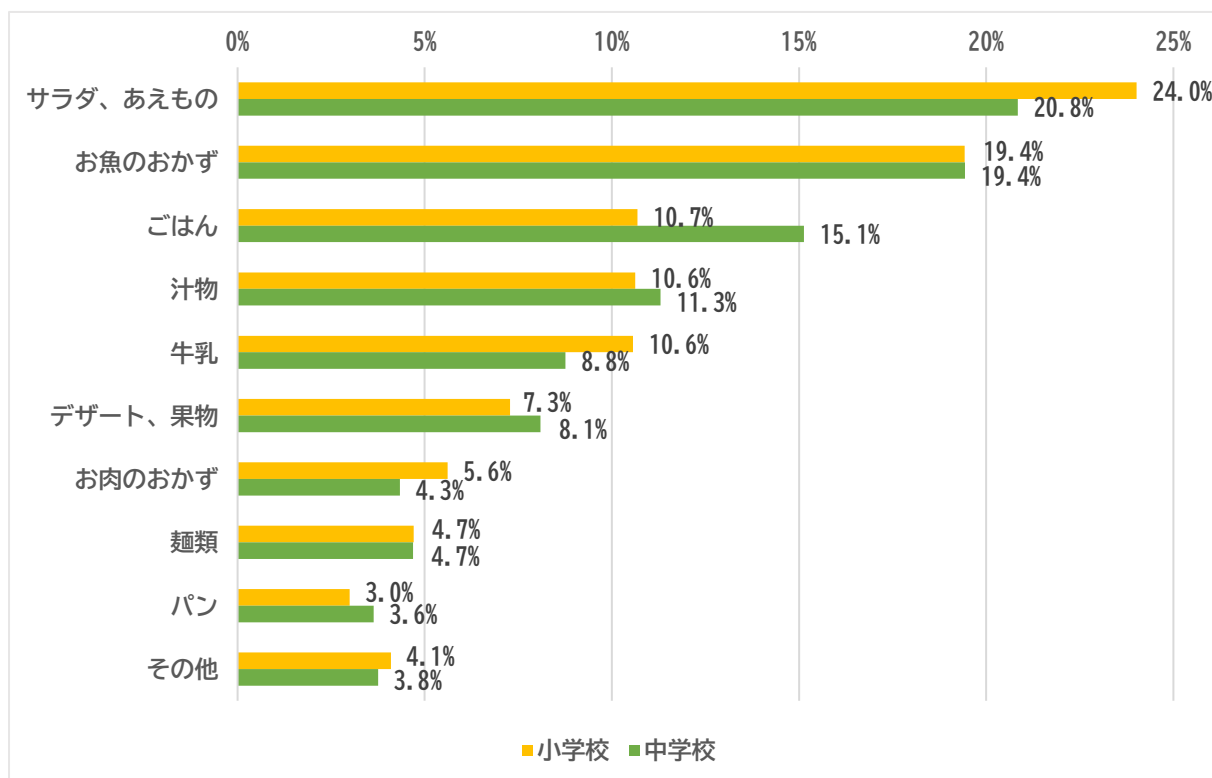
給食を「ほとんど毎日残さず食べている」（3,310件、28.8%）、「残してしまう日が多くある」（1,270件、11.0%）、「毎日残してしまう」（375件、3.3%）と回答した4,955名のうち、給食を残してしまう理由として「嫌いな食べ物があるから」という意見が44.5%と一番多い結果となり、これは学校区分別にみても同様の結果となった。

(Q3-1にて「ほとんど毎日残さず食べている」、「残してしまう日が多くある」または「毎日残してしまう」を選んだ方のみ)

Q3-3.あなたが給食で残してしまうことが多い食べ物はなんですか？ ※複数回答可



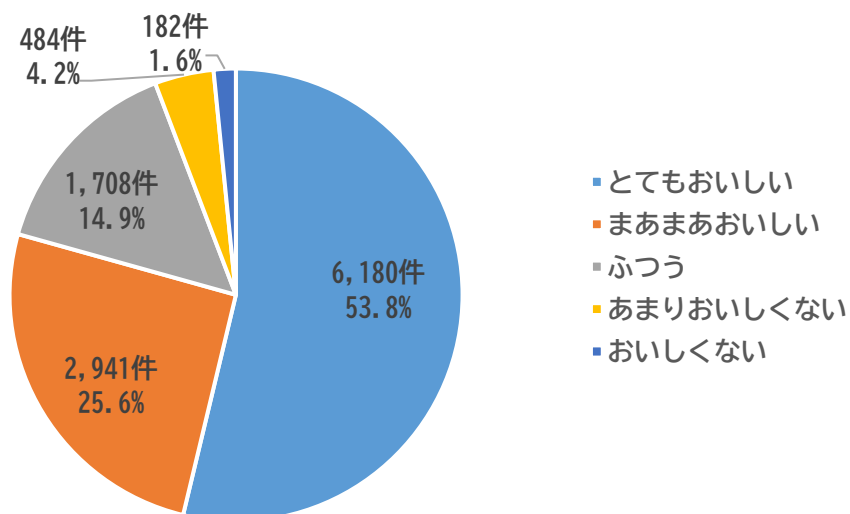
【学校区分別比較（小学生、中学生）】



給食を「ほとんど毎日残さず食べている」(3,310件、28.8%)、「残してしまう日が多くある」(1,270件、11.0%)、「毎日残してしまう」(375件、3.3%)と回答した4,955名のうち、残してしまうことが多い食べ物として「サラダ、あえもの」を選んだ方が23.1%と一番多い結果となり、次いで「お魚のおかず」が19.4%という結果となった。

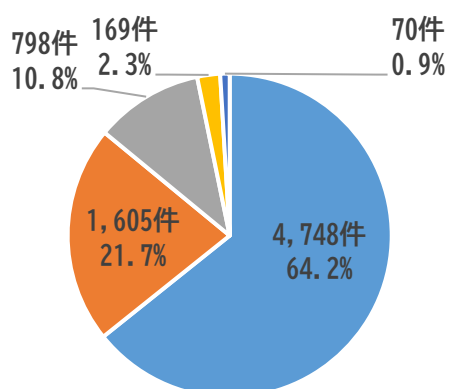
Q4. 学校給食について詳しく教えてください

(1) おいしさについて

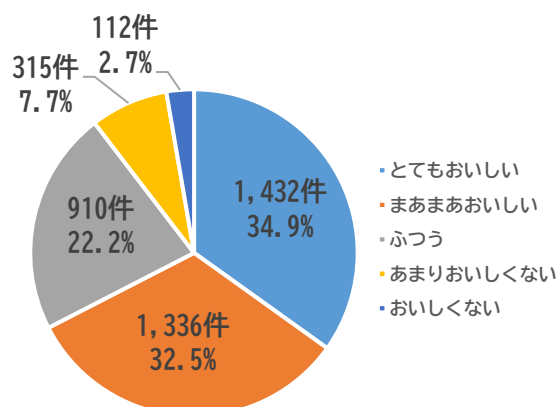


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生



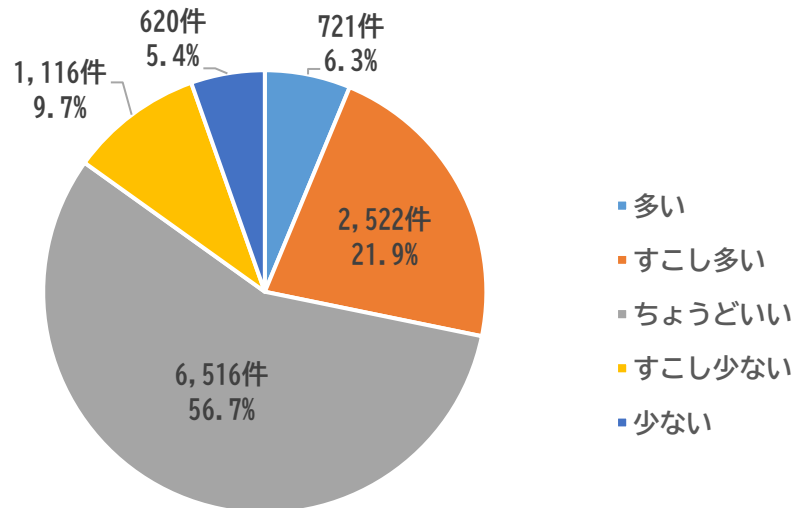
中学生



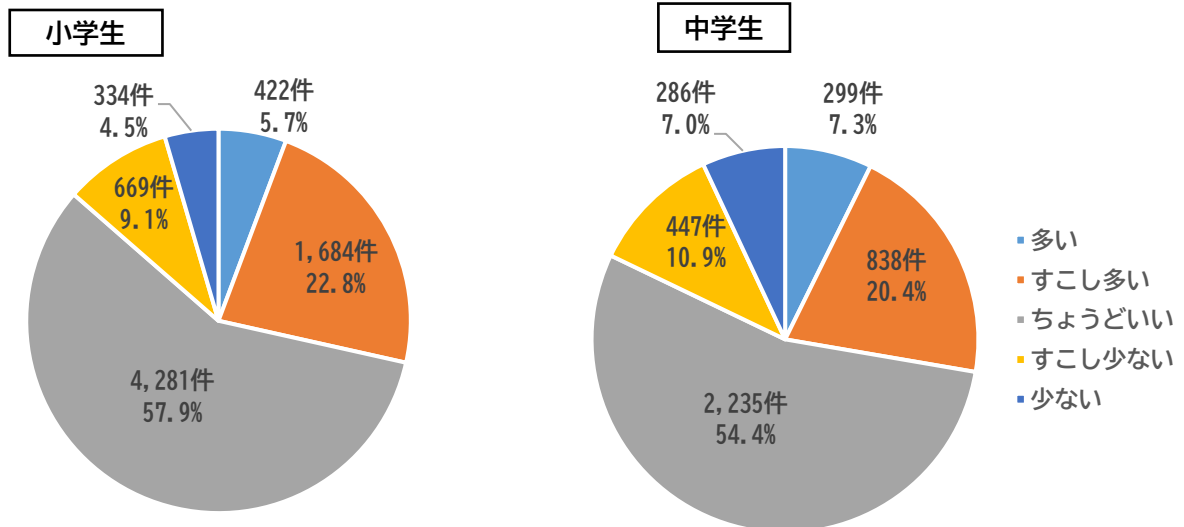
給食を「とてもおいしい」（6,180件、53.8%）、「まあまあおいしい」（2,941件、25.6%）と回答した方は全体の79.4%（9,121件）と、約8割の児童生徒が給食をおいしいと感じていることがわかる。

学校区分別にみると小学生の方がより給食をおいしいと感じて食べていることがわかる。

(2) 量について

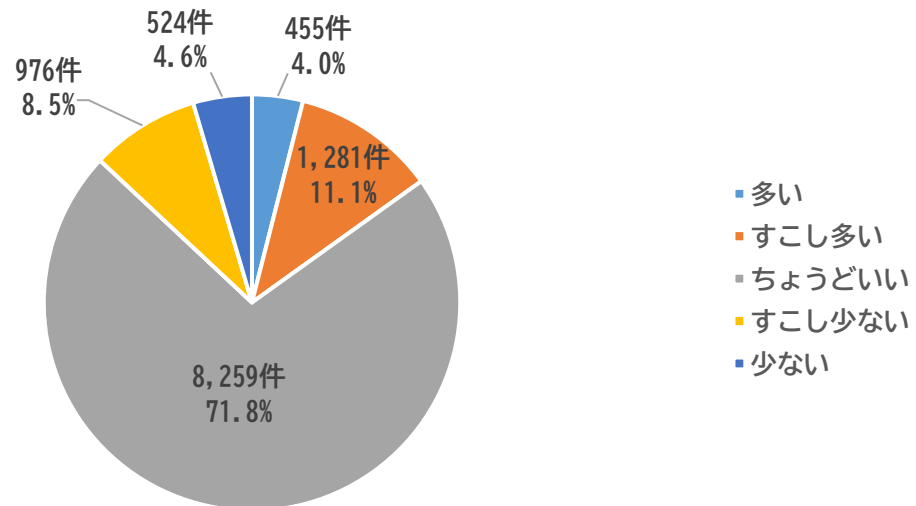


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

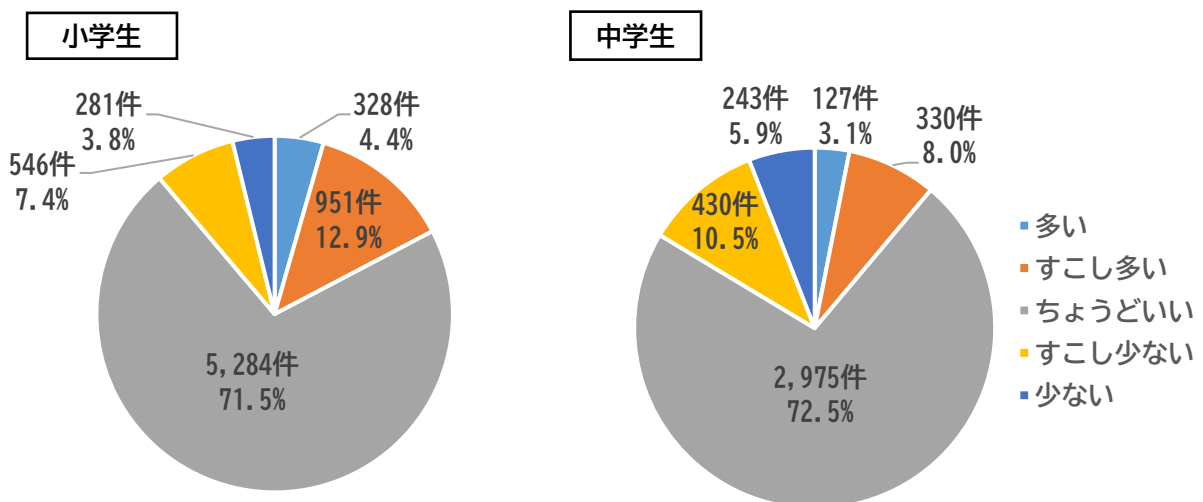


給食の量が「ちょうどいい」と回答した方は全体の56.7%（6,516件）と、半数以上の児童生徒が適量で給食を喫食できていることがわかる。

(3) 品数について

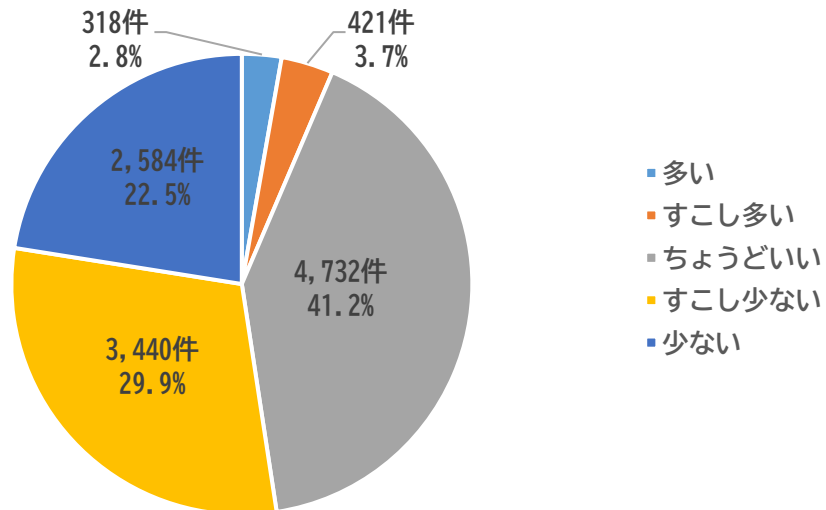


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

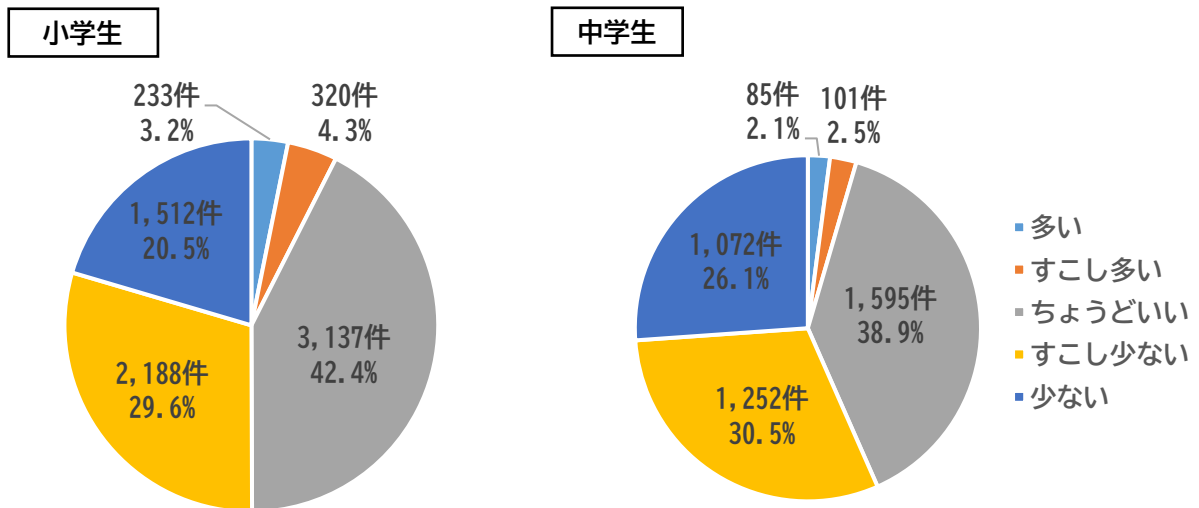


給食の品数が「ちょうどいい」と回答した方は全体の71.8%（8,259件）と、約7割の児童生徒が品数をちょうどいいと感じていることがわかる。

(4) くだもの、デザートが出る回数について

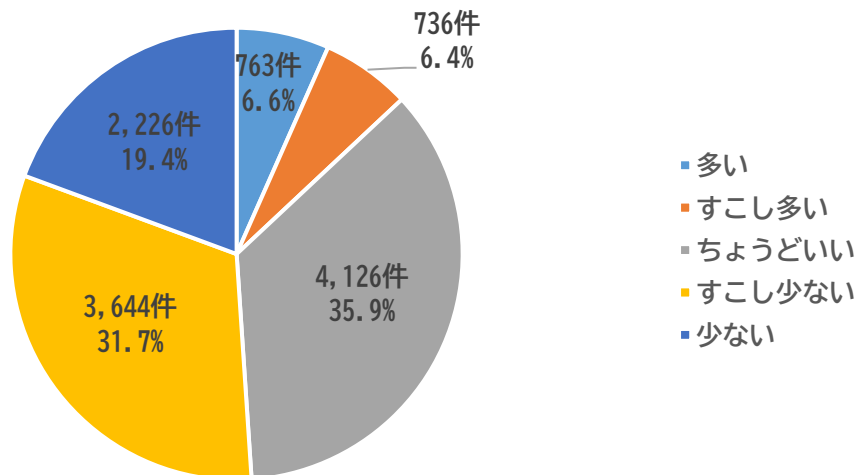


【学校区分別比較（小学生、中学生）】



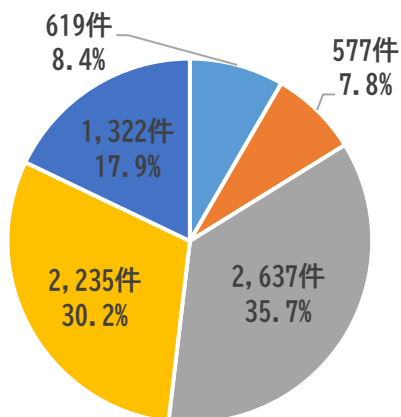
くだもの、デザートが出る回数が「すこし少ない」（3,440件、29.9%）、「少ない」（2,584件、22.5%）と回答した方は全体の52.4%（6,024件）という結果となり、くだものやデザートが出ることを楽しみにしている児童生徒が多いことがわかる。

(5) 好きなメニューがでる回数について

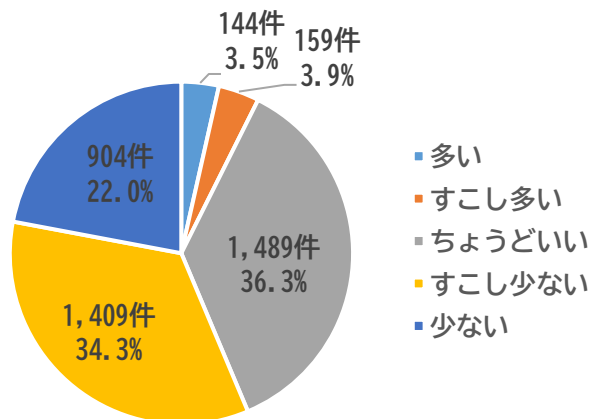


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生

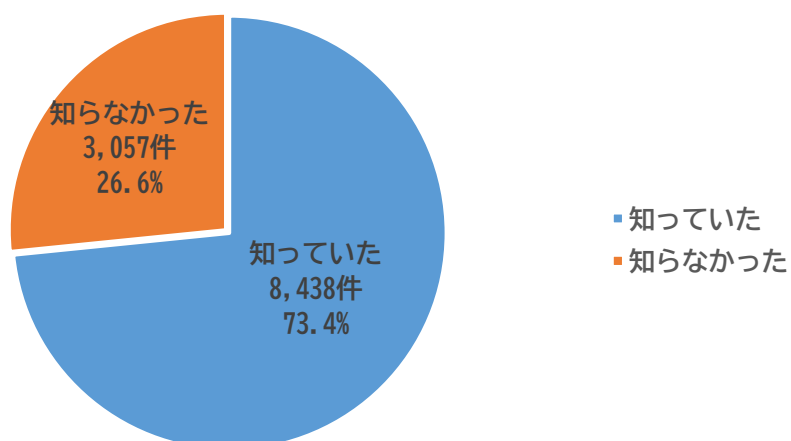


中学生



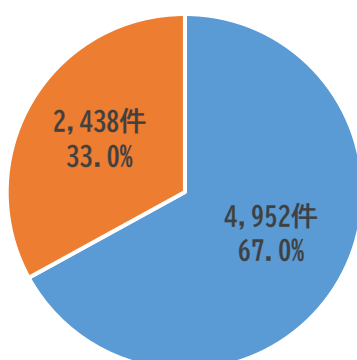
好きなメニューが出る回数が「ちょうどいい」と回答した方は全体の35.9%（4,126件）で、「すこし少ない」（3,644件、31.7%）、「少ない」（2,226件、19.4%）と回答した方は51.1%の半数程度というような結果となった。

Q5. あなたは学校給食費が無料になっていることを知っていましたか？

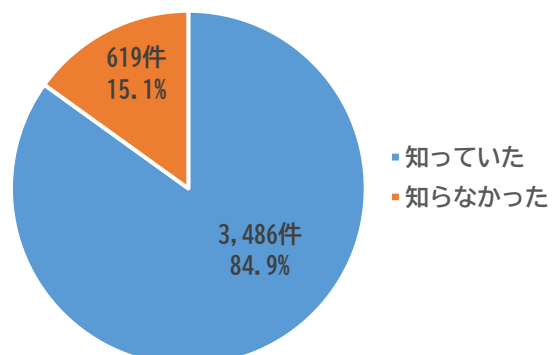


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生

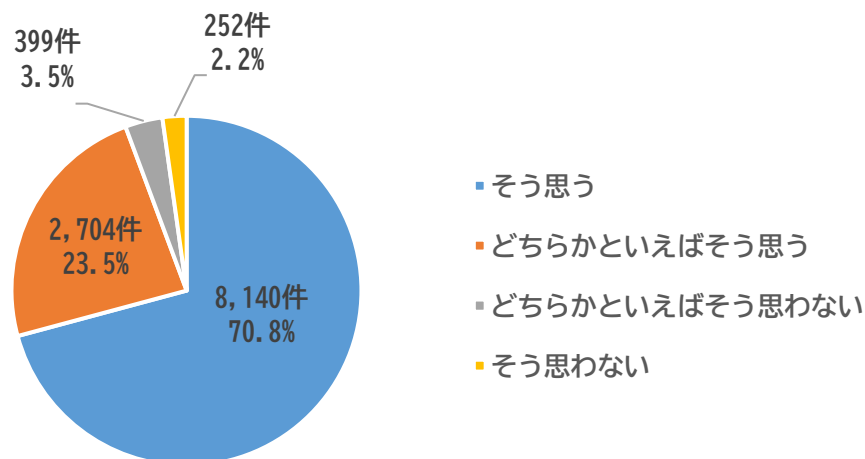


中学生

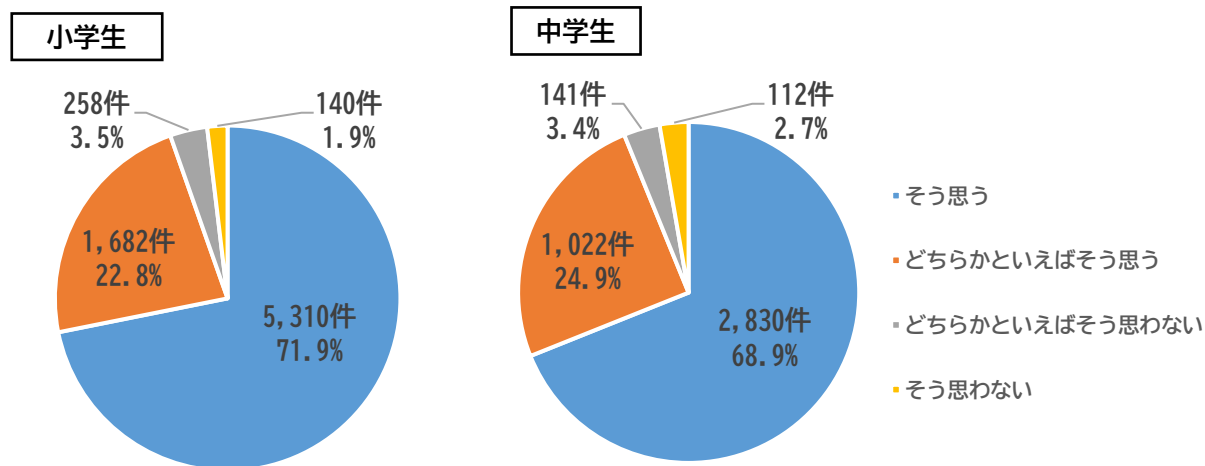


無償化の認知度について、全体の73.4%（8,438件）が認知しており、保護者だけでなく児童生徒の間でもかなり認知されていることがわかる。
特に学校区分別にみると、中学生は84.9%（3,486件）とより高い認知度となっている。

Q6-1. あなたは給食を残さず食べるべきだと思いますか？



【学校区分別比較（小学生、中学生）】

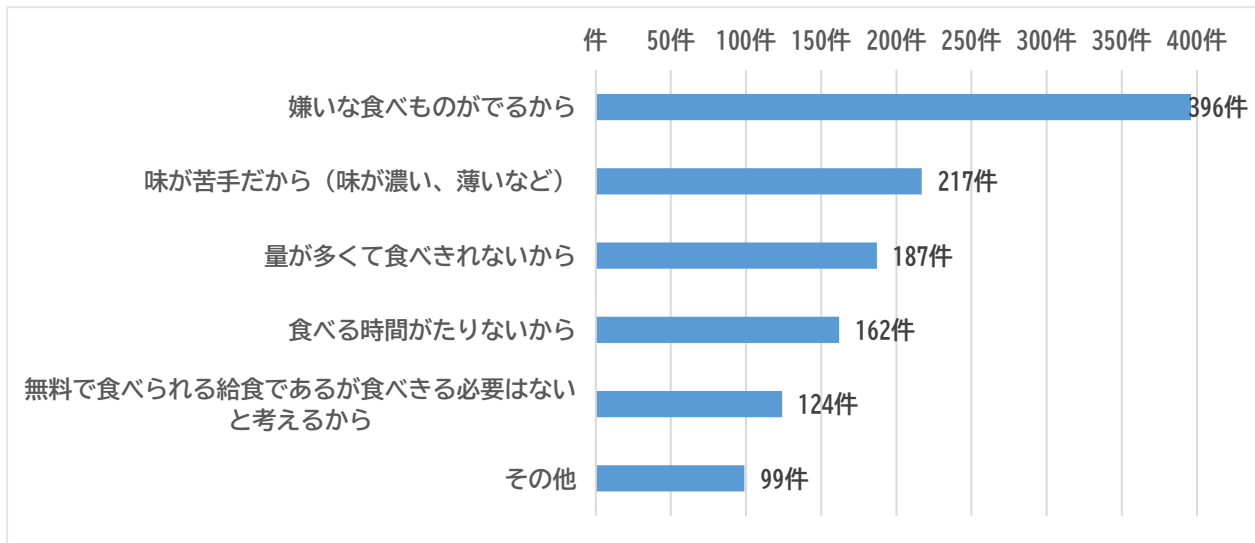


給食を残さず食べるべきかの問いに対して、「そう思う」（8,140件、70.8%）、「どちらかといえばそう思う」（2,704件、23.5%）と回答した方は全体の94.3%（10,844件）と、ほとんどの児童生徒が給食を残さず食べるべきであると考えていることがわかる。

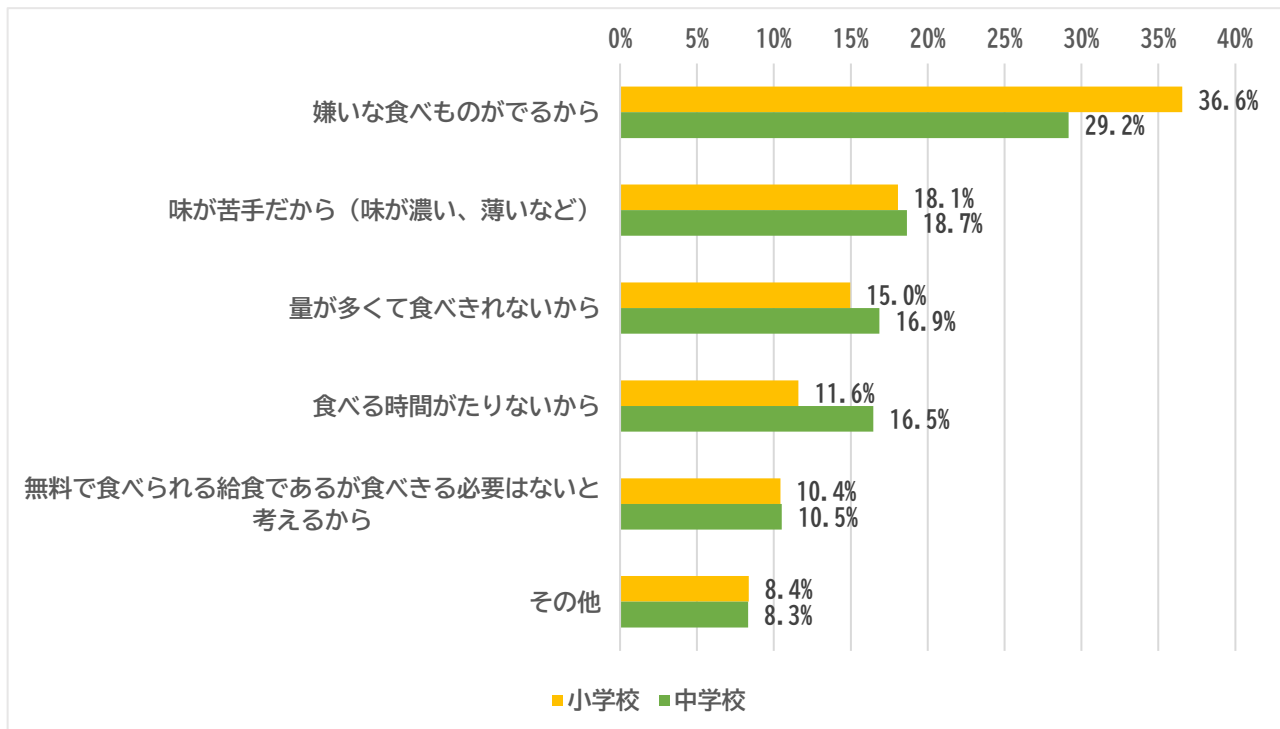
学校区分別にみても同様の傾向であった。

(Q6-1にて「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」を選んだ方のみ)

Q6-2. あなたがそのように考える理由を教えてください ※複数回答可



【学校区分別比較（小学生、中学生）】

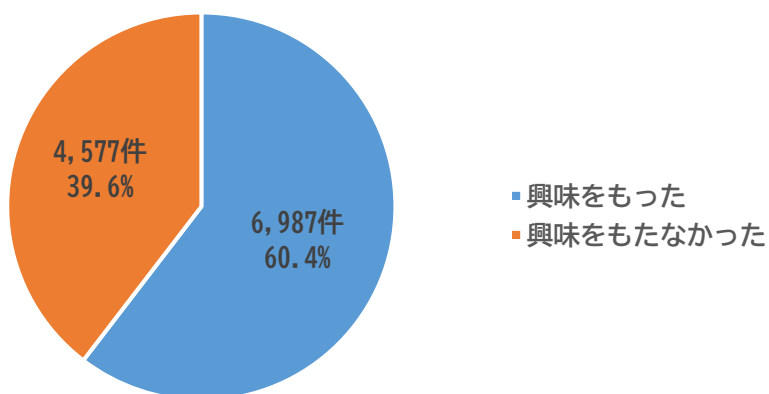


【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・人それぞれ好き嫌いはあるため、無理して食べるべきではないと考えたため（49件）
- ・食べることに對して個人差や抱えている事情があるため（19件）

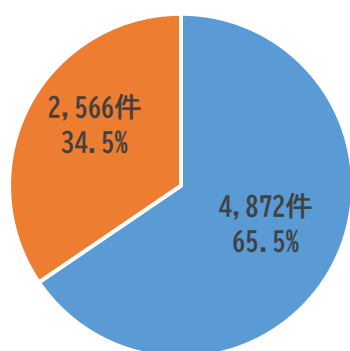
給食を残さず食べるべきかの質問に対して、「どちらかといえばそう思わない」（399件、3.5%）、「そう思わない」（252件、2.2%）と回答した651名のうち、そのように考える理由として「嫌いな食べものが出るから」を挙げていた方は全体の33.4%と一番多く、次いで「味が苦手だから」を挙げていた方は全体の18.3%という結果となった。

Q7-1. あなたはこの1年間（令和5年4月～）で、食に関する興味をもちましたか？

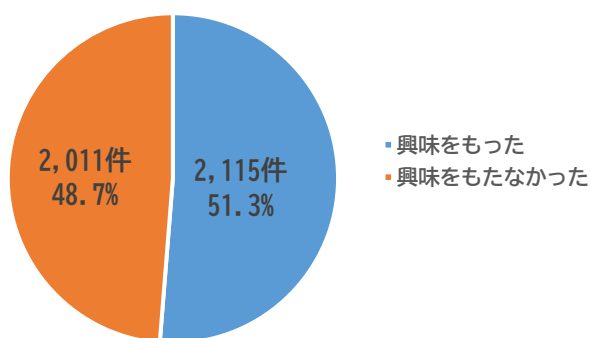


【学校区分別比較（小学生、中学生）】

小学生



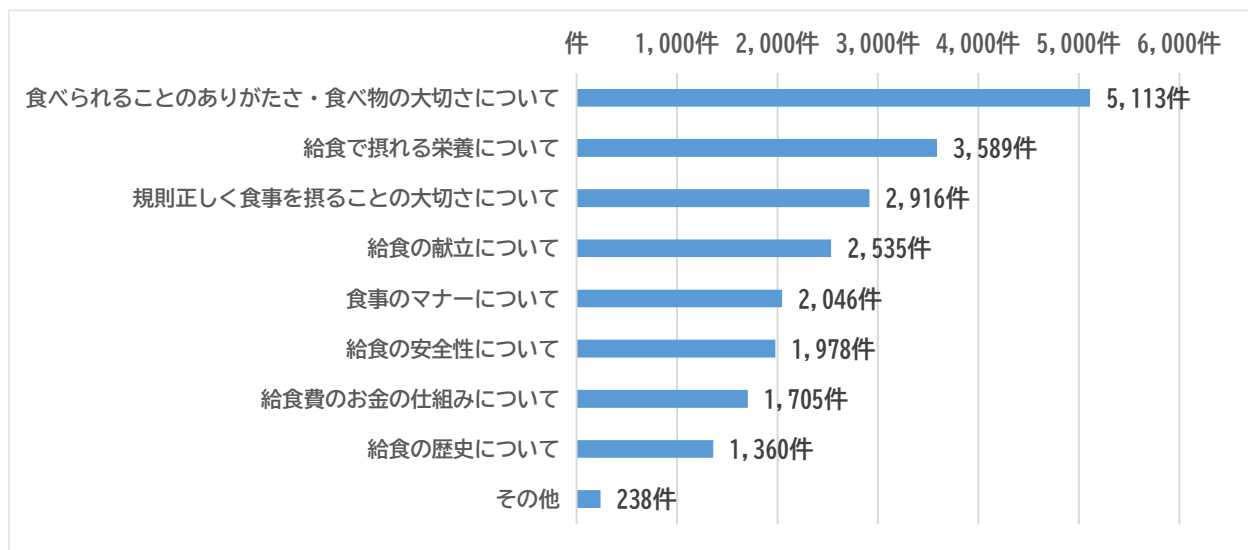
中学生



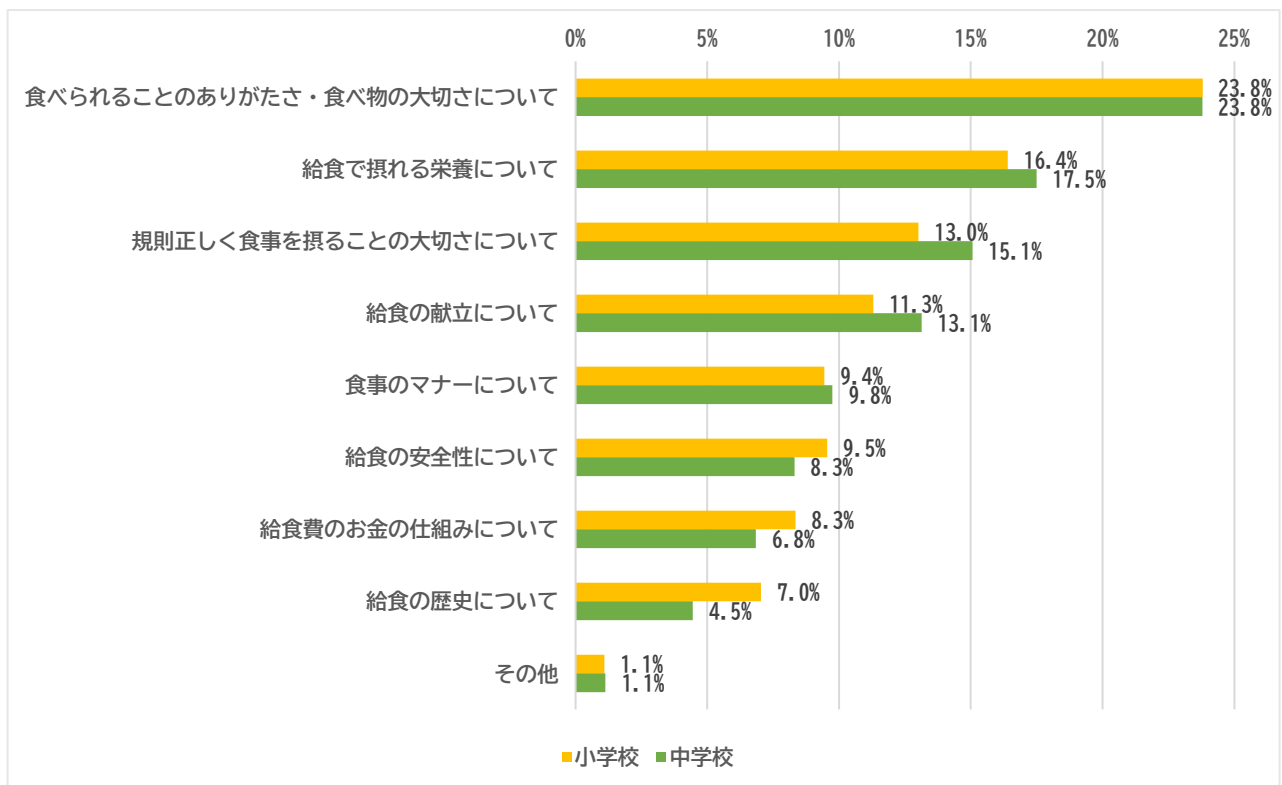
この1年間（令和5年4月～）で食に関する興味をもったかという質問に対して、「興味をもった」と回答した方は60.4%（6,987件）と半数以上であった。このことから、学校給食を無償化したことも少なからず、子どもが給食に興味をもったきっかけの一つとして挙げられていると考えられる。

(Q7-1にて「興味をもった」を選んだ方のみ)

Q7-2. 具体的にどのような内容に興味がありましたか？ ※複数回答可



【学校区分別比較（小学生、中学生）】



【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・給食の作り方やレシピについて（41件）
- ・おいしい給食を作ることができる秘訣について（30件）
- ・食品ロスについて（20件）

この1年間（令和5年4月～）で食に関する興味をもったかという質問に対して、「興味をもった」と回答した6,987名のうち、「食べられることのありがたさ・食べ物大切さについて」興味を持ったと回答した人が23.8%、次いで「給食で摂れる栄養について」興味を持ったと回答した人が16.7%という結果となった。

≪教職員向け≫学校給食に関するアンケート 調査結果

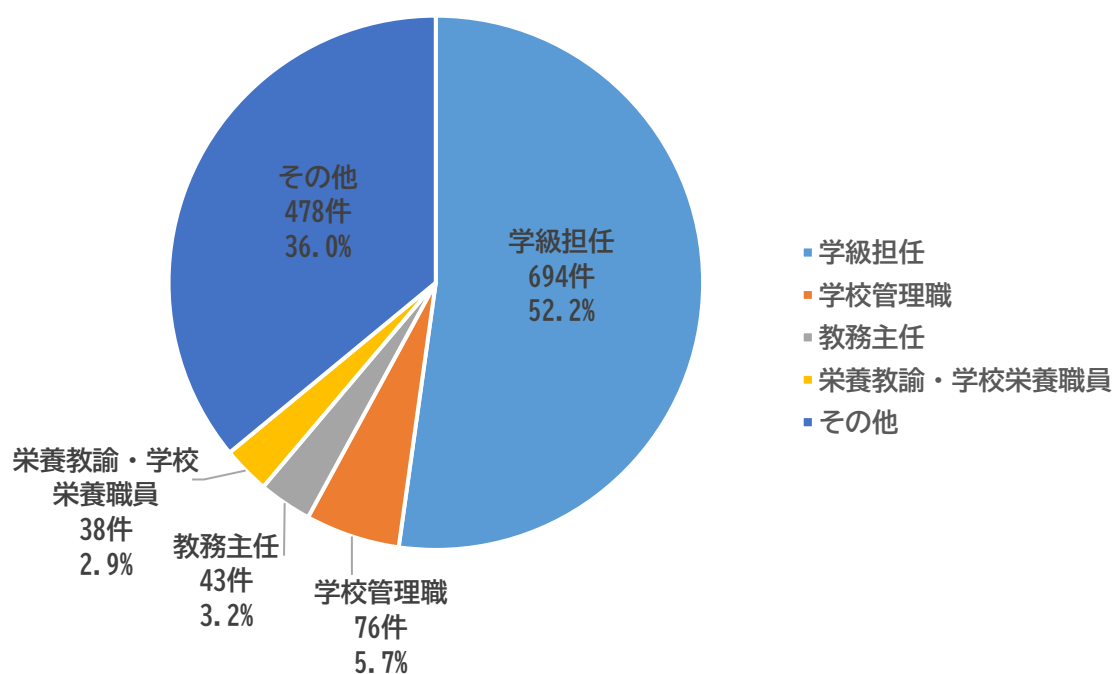
対象者

市立学校教職員2,636名（市内56校）

回答数

対象者数	回答数	回答率
2,636名	1,329名	50.4%

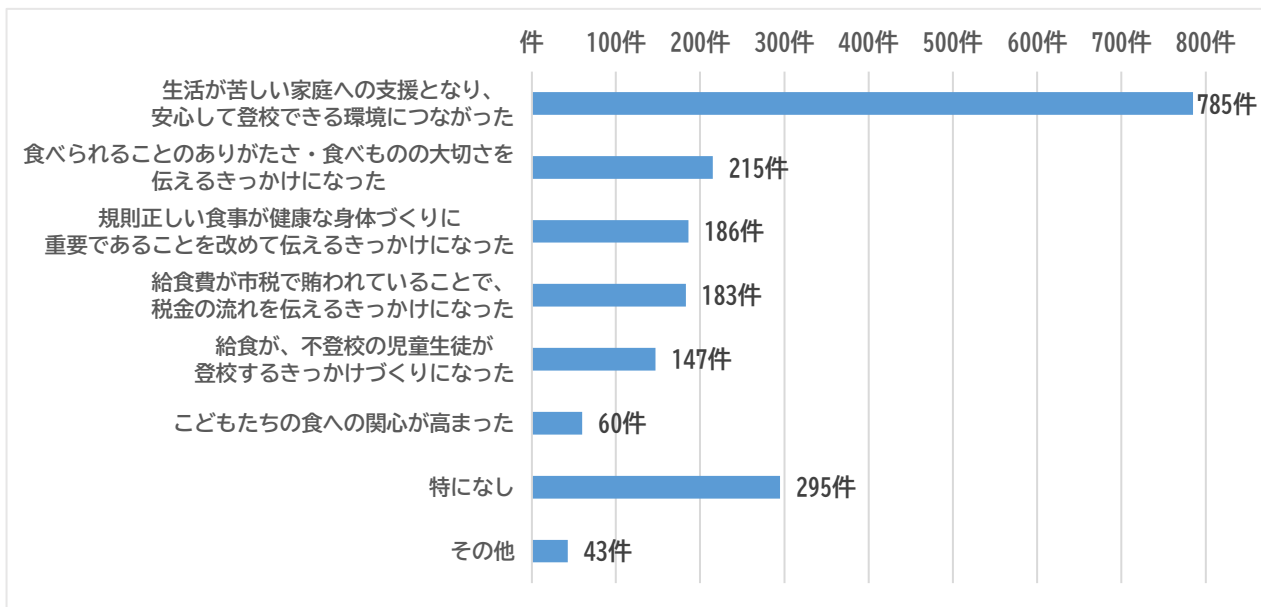
Q1. 役職



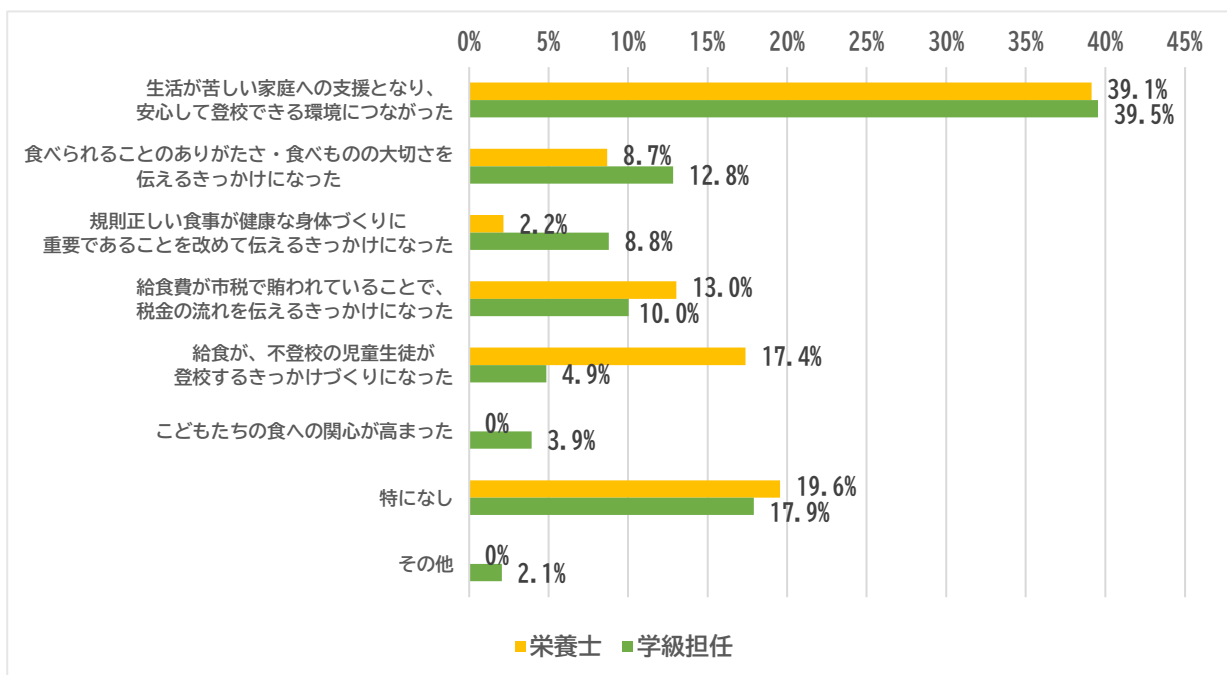
回答者の役職を見ると、「学級担任」が52.2%（694件）、「学校管理職」が5.7%（76件）、「栄養教諭・学校栄養職員」が2.9%（38件）というような回答率となった。

Q2. 学校給食費を無償化したことにより、どのような効果があると感じますか？

※複数回答可



【役職別比較（栄養士、学級担任）】



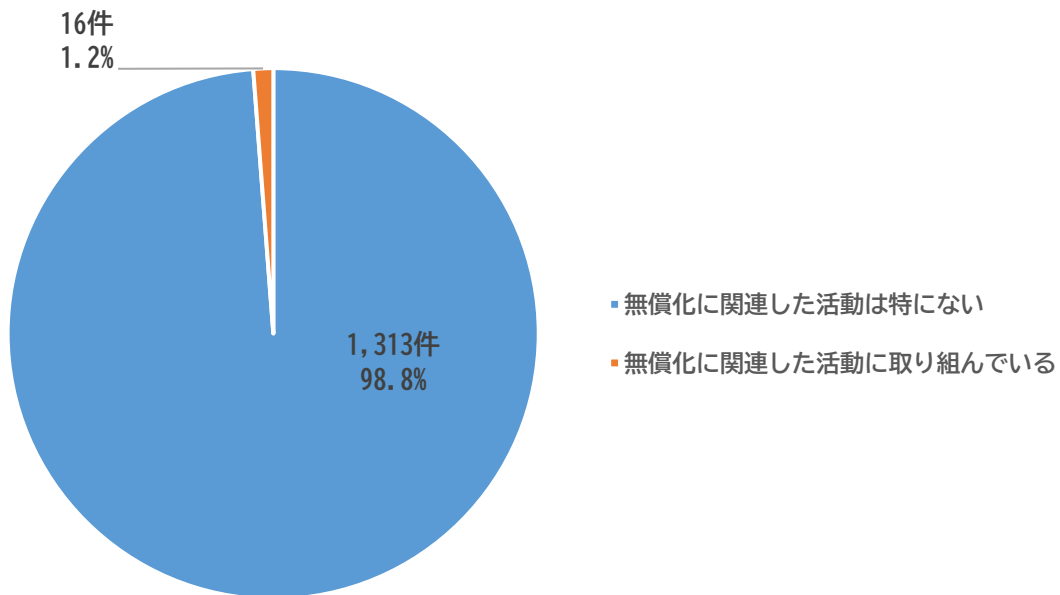
【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・会計事務(集金・督促)や教員の業務の軽減（18件）
- ・ありがたみや給食を残すことへの意識欠如（10件）

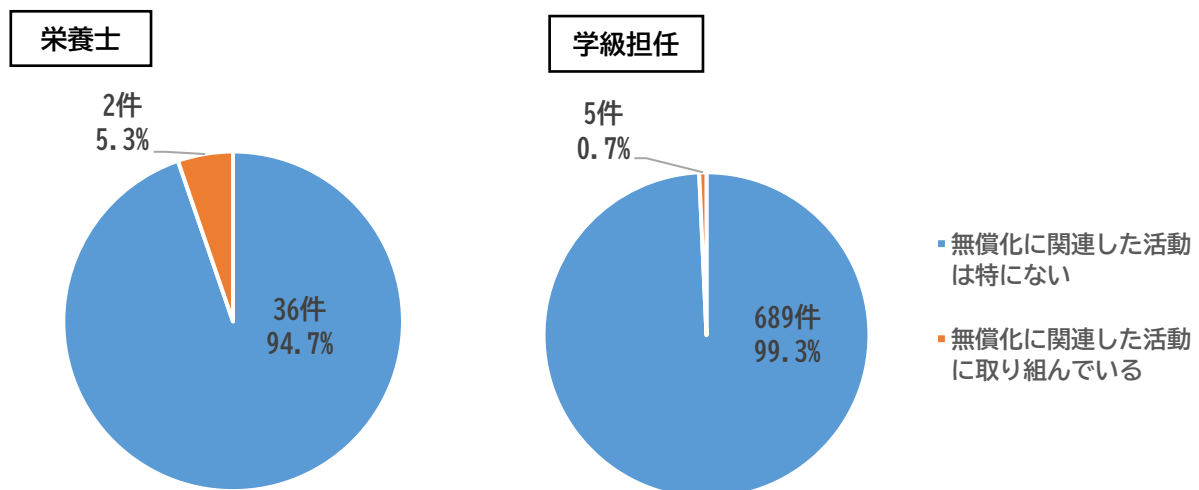
無償化したことで生じた効果として、「生活が苦しい家庭への支援となり、安心して登校できる環境につながった」との回答が全体の41.0%（785件）と大半をしめる結果となり、特に給食に係わる人が多い役職別にみても、一番多い結果となった。

その他の意見として、公会計化による会計事務の負担軽減の意見も挙げられた一方で、無償化したことで給食のありがたみや残すことへの意識が欠如したというような今後の課題となる意見も見受けられた。

Q3. 無償化に関連して取り組んでいることまたは活動はありますか？



【役職別比較（栄養士、学級担任）】

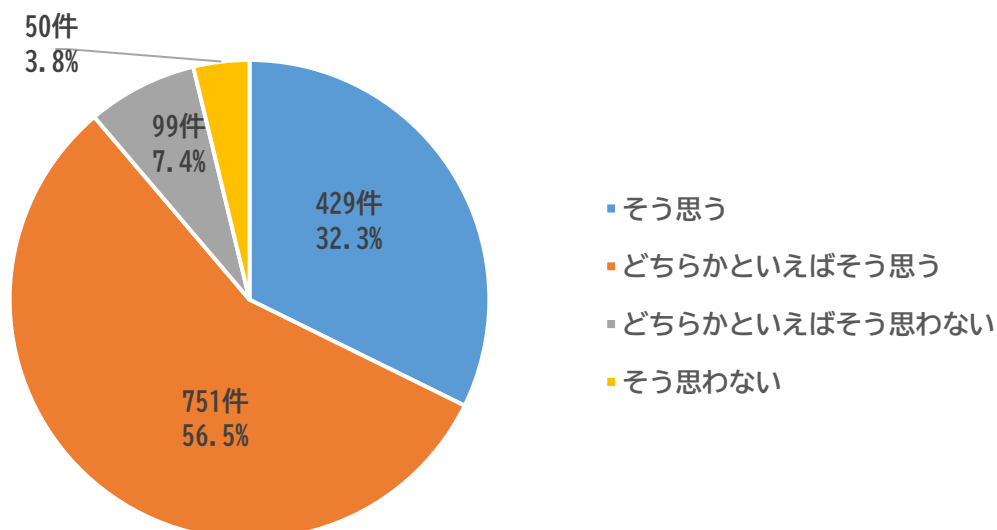


【「取り組んでいる」を選択した方の具体例（一部抜粋）】

- ・ 残菜を減らすために事前に配膳量を調整し、保護者に対しても牛乳なしにするなどのメニュー変更を案内する声掛けを行った（5件）
- ・ 税金を扱う授業や、食育の説明をする際に、無償化と関連付けて説明した（3件）

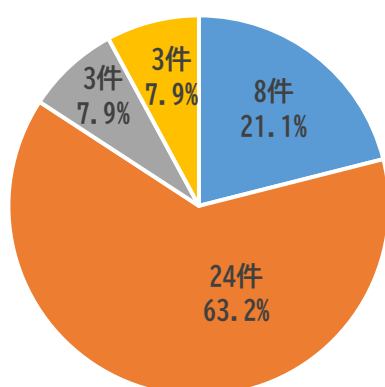
無償化に関連づけた取り組みや活動については行っていない学校が多いことがわかった。そのため、今回のアンケートで「取り組んでいる」を選択した方の意見を参考に、取り組み例を学校に周知することで、今後、意識的に関連した取り組みを行っていただくよう促進し、学校給食費の無償化をより周知していくことが必要になると考えられる。

Q4-1. 給食は残さず食べるべきだと思いますか？

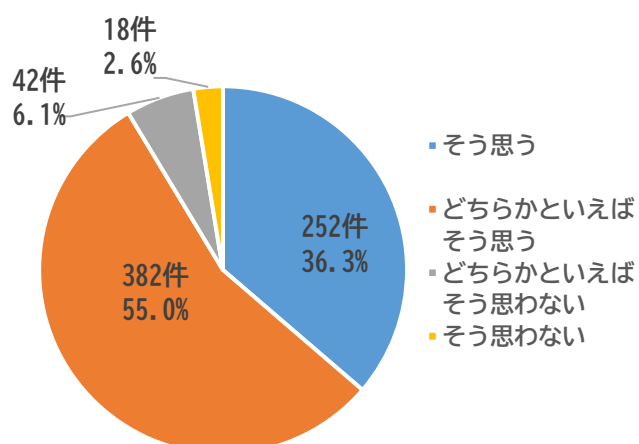


【役職別比較（栄養士、学級担任）】

栄養士



学級担任

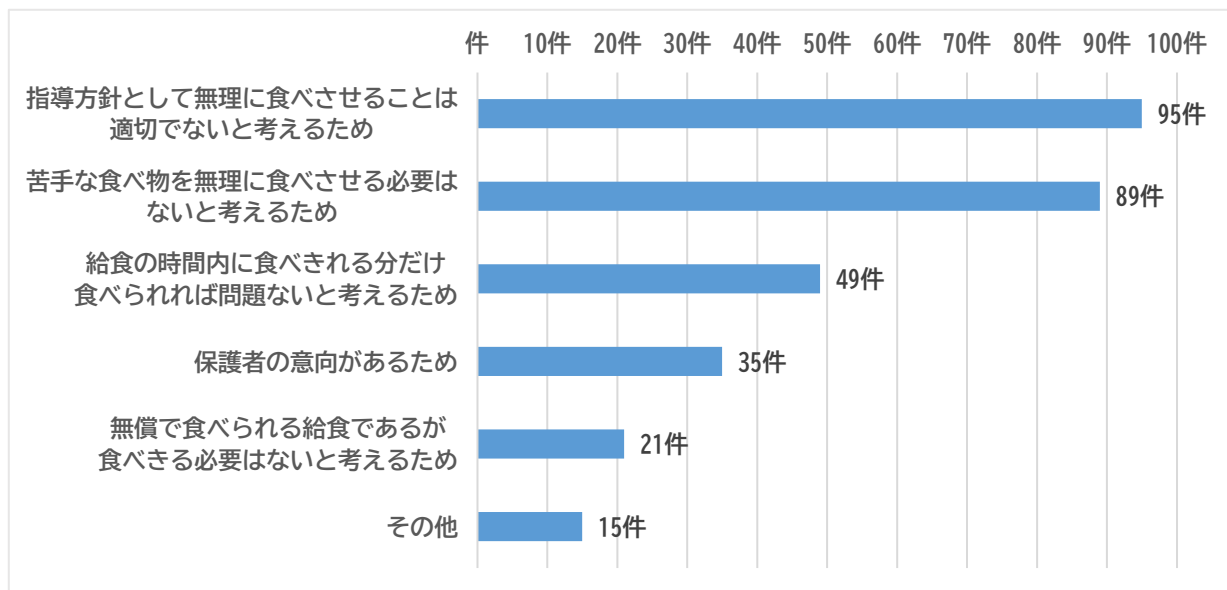


「そう思う」（32.3%、429件）、「どちらかといえばそう思う」（56.5%、751件）を選んだ方が全体の88.8%を占めており、ほとんどの方が給食を残さず食べてほしいと考えていることがわかった。

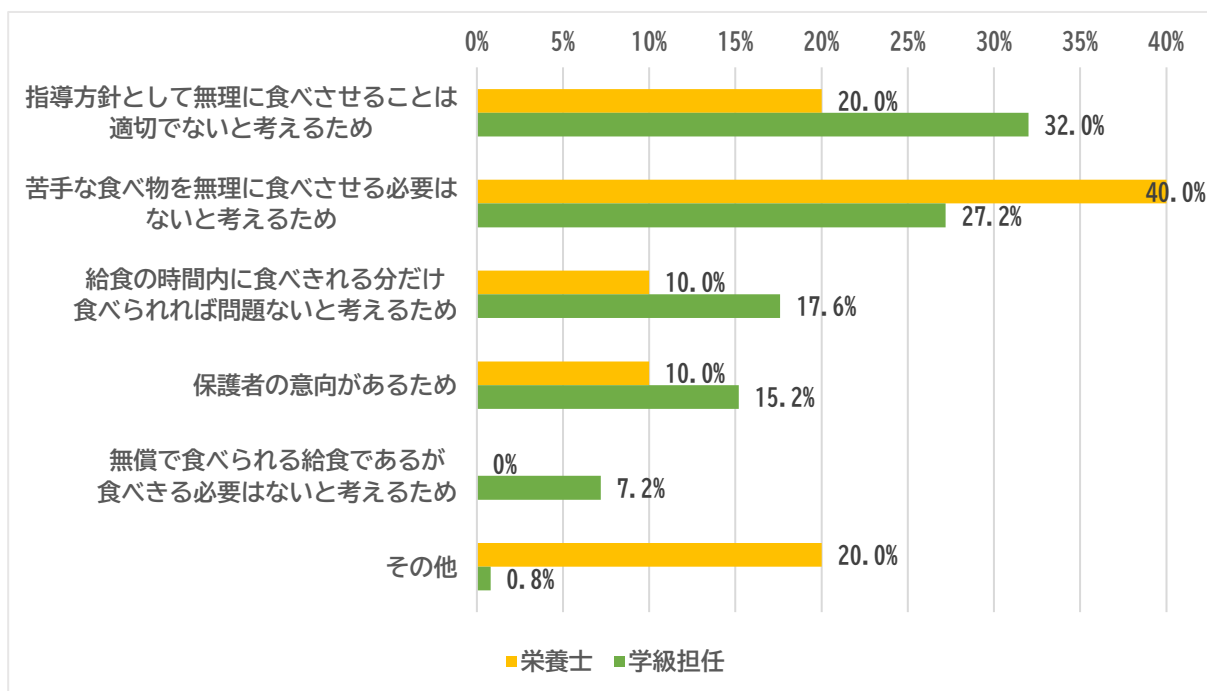
児童生徒と保護者にも同じ質問をしているが、同様の傾向となった。

(Q4-1にて「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」を選んだ方のみ)

Q4-2.理由を教えてください ※複数回答可



【役職別比較（栄養士、学級担任）】



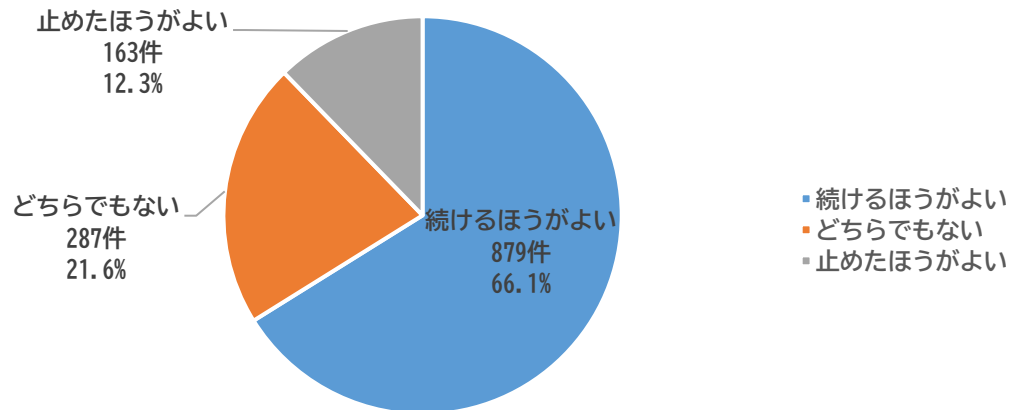
【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・それぞれの事情や体調があることから、個別に対応すべきと考えるため（11件）

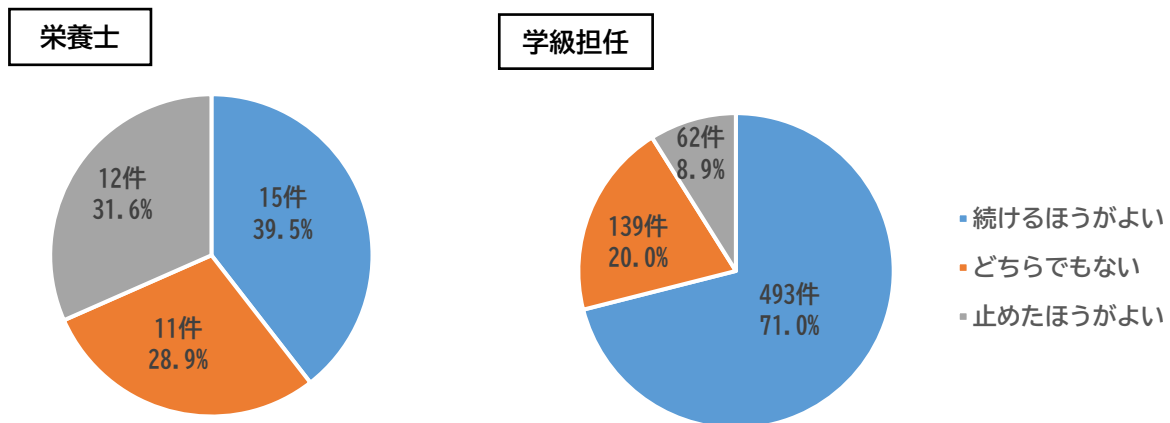
Q4-1にて「どちらかといえばそう思わない」（7.4%、99件）、「そう思わない」（3.8%、50件）を選んだ149名の方の中で、「指導方針として無理に食べさせることは適切でないと考えるため」（31.3%）という意見が一番多い結果となった。

一方で、保護者にも同様の質問をしているが、「苦手な食べ物を無理に食べさせる必要はないと考えるため」が一番多い結果となっている。

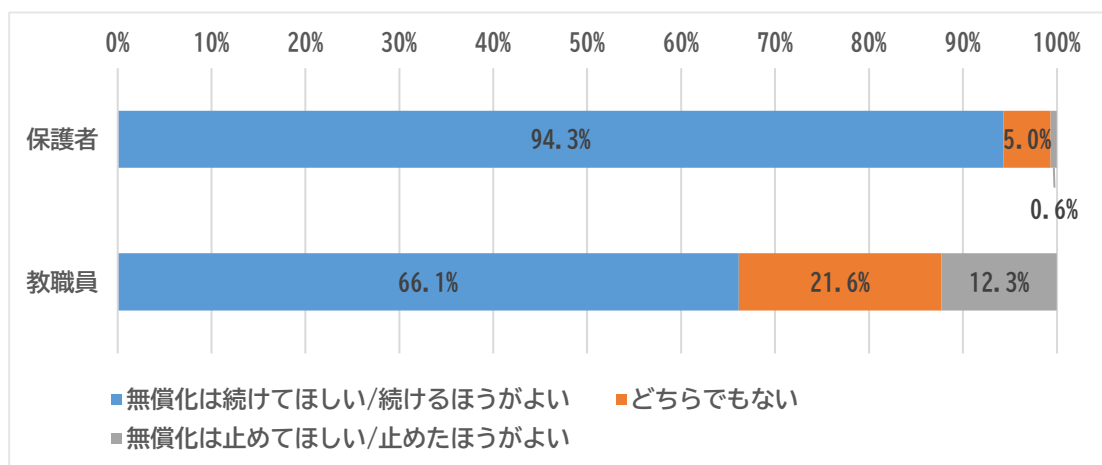
Q5. 給食費の無償化は、これからも続けていくべきだと思いますか？



【役職別比較（栄養士、学級担任）】

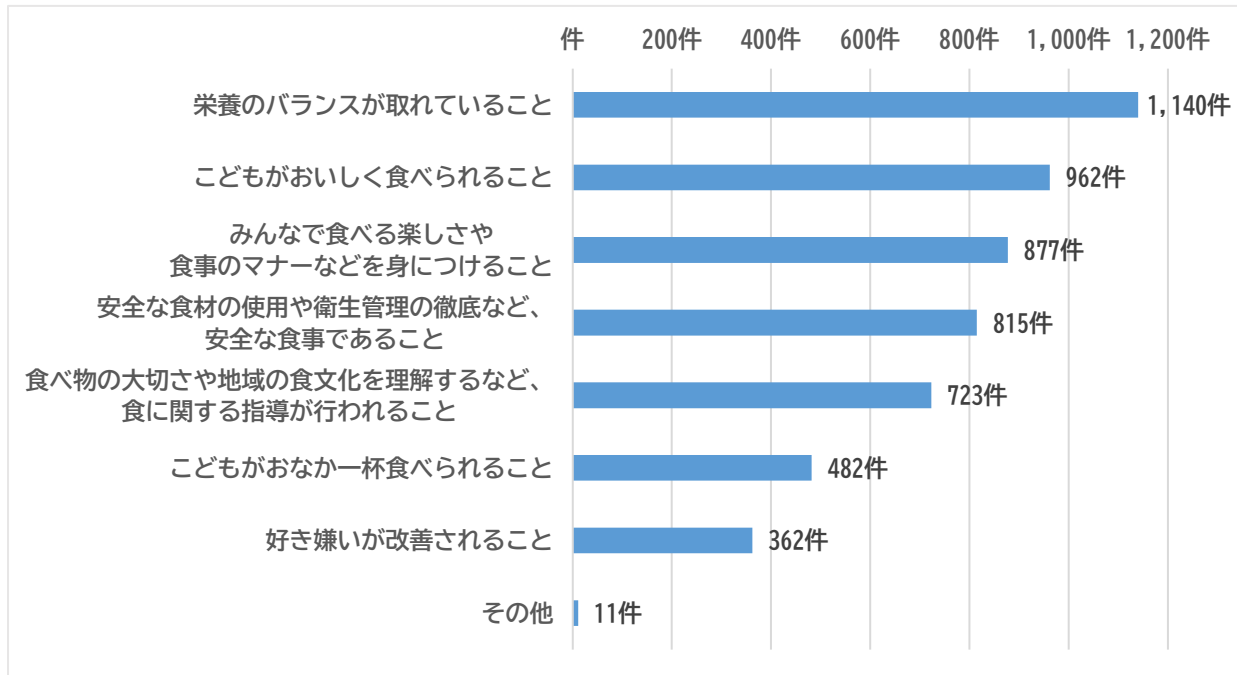


（参考）【保護者比較】

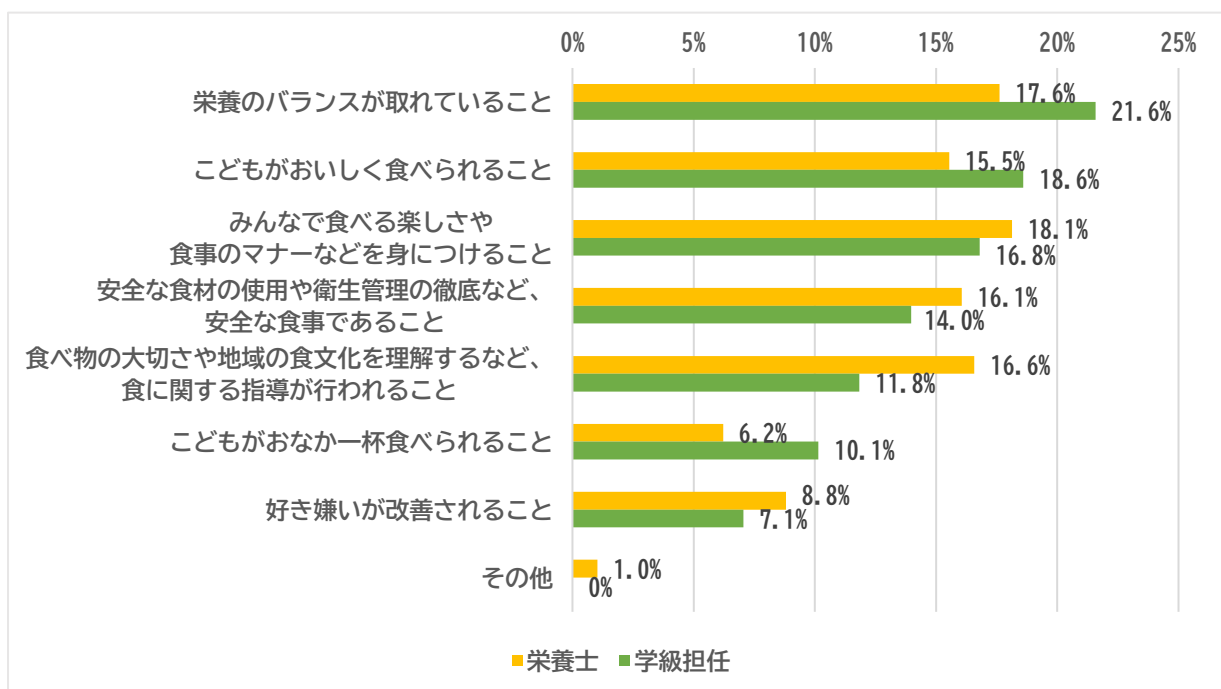


学校給食費の無償化を「続けるほうがよい」（66.1%、879件）という意見が過半数を超える結果となった。一方で、保護者の結果と比較すると、教職員の「無償化は続けてほしい/続けるほうがよい」という意見が低いことがわかる。

Q6. 学校給食において、重要だと思うことは何ですか？ ※複数回答可



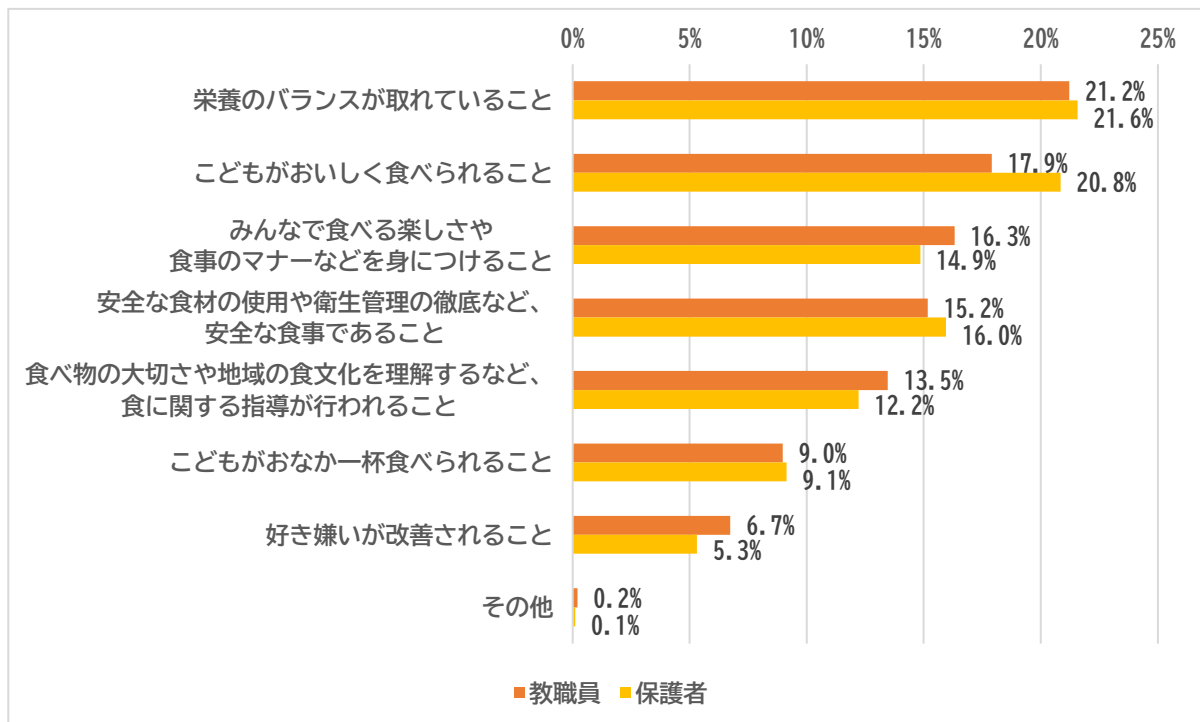
【役職別比較（栄養士、学級担任）】



【その他を選択した方の理由（一部抜粋）】

- ・家庭では提供されない献立と出会えること（3件）

(参考) 【保護者比較】



学校給食において重要としていることについて、「栄養バランスが取れていること」(21.2%、1,140件)の意見が一番多い結果となった。次いで、「こどもがおいしく食べられること」(17.9%、962件)、「みんなで食べる楽しさや食事のマナーなどを身につけること」(16.3%、877件)と続く結果となった。

保護者の結果と比較した際にも、「安全な食材の使用や衛生管理の徹底など、安全な食事であること」という意見が教職員よりも高いものの、概ね同様の傾向となった。

Q7. その他ご意見がございましたらご記入をお願いいたします

- ・ 日頃の給食提供や無償化制度への感謝 (39件)
- ・ 給食費が未納の家庭への催促がなくなったことや、その家庭のお子さんがお金のことを気にせずに食べることができているので、今後も続けていくべき (7件)

今後の課題につながるご意見

- ・ 学校の施設や備品など他のところにお金をかけてほしい (63件)
- ・ 無償化により給食や食材へのありがたみに対する意識が低下した気がする (19件)

総評

保護者と児童生徒へのアンケート結果の中で、学校給食費が無償化されていることを認知している割合は、それぞれ児童生徒で7割以上、保護者は9割以上という結果となり、学校給食費無償化の制度が幅広く周知されている結果が得られた。児童生徒に取ったアンケートでは、給食を「とてもおいしい/まあまあおいしい」と給食に対して好印象な意見が約8割、量や品数が適量であると感じている意見が半数以上となった。さらに、保護者、児童生徒ともに、給食をできるだけ残さずに食べるべきであると考える意見も多かったことから、無償化したことによる「給食のありがたみや給食を残すことへの意識の欠如」は少ないことが推測できる。一方で、教職員のアンケートからは、無償化したことで生じる懸念点として、こどもたちの給食へのありがたみや残菜に対する意識低下が挙げられているため、これらの結果を踏まえ、引き続き、こどもたちには給食に対して質・量ともに満足できるよう、食育を通じて給食の大切さを伝えていきながら、給食提供を続けていくことが重要と考える。

また、今回のアンケートの中で、給食の無償化を続けていくべきと回答した保護者は9割以上で、制度に対しての賛成意見が多いことがわかる結果となった。さらに、給食費が無償化になった分のお金を「こどもの習い事や塾など、家庭でのこどもの教育にかかる費用」に充てている割合が一番多く、このことから無償化の二次効果としての家庭における教育環境の充実にも繋がっていると考えられる結果となった。一方で、自由記載欄の中には給食の質や量を保つことが難しいのであれば、「給食費を支払うこともやむを得ない」というような意見もあり、このような意見の要因としては、近年の物価高騰の影響や、他の教育費用に税金を回してほしい、給食の量や品数を増やしてほしいというような要望が主な理由であると考えられる。そのため、給食費を無償化している状態であっても、こどもたちが満足できる給食を提供するために、アンケート結果を踏まえ取り組むべき課題を整理し、事業の改善を行っていく。

最後に、今回のアンケート結果を受け改善すべき点も見えてきたことから、学校の栄養教諭・学校栄養職員をはじめ、学校現場に共有するとともに、今後も定期的にアンケート調査を実施し、子どもたちや保護者、学校現場の意見を確認する場を設け、こどもたちが安心して楽しい学校給食の時間を過ごせるよう努めていく。